



# エフテック CSR 報告書 2019

# On the Global Way

世界を結び、世界で創る

チャレンジ精神

Challenging Spirit

人間尊重

Respecting People

## ■ 編集方針

エフテックでは、2010年度以来、グローバルに展開する当社グループの環境保全や社会貢献等に対する取り組み状況について「環境報告書」として報告してきました。2017年度からは、第13次中期経営計画の開始及び社会的にCSR<sup>\*1</sup>やESG<sup>\*2</sup>の考え方が重視されている社会的背景を踏まえて、「環境報告書」を刷新し「CSR報告書」の発行を開始しました。

本報告書については、当社グループのCSR活動に係るステークホルダーの皆様とのコミュニケーションツールの一つと考え、CSR推進体制、ガバナンス・コンプライアンス、人権・労働、環境保全、安全・品質、社会貢献など、当社グループの取り組みについて、わかりやすく記載しています。

環境、社会などこれまで報告してきた内容は、連続性を損なわないよう配慮しつつ、今後もさらなる内容の充実につとめて参ります。

環境については環境省「環境報告ガイドライン」(2018年版)、社会的責任については「ISO26000」などを参考にしています。

なお本報告書中、エフテックグループについてはエフテックグループないし当社グループ、株式会社エフテックについては、エフテックないし当社と表記しています。

\*1 CSR : Corporate Social Responsibility

\*2 ESG : 企業が持続的成長をめざす上で重視すべき3つの側面、環境 (E)、社会 (S)、企業統治 (G)

# Contents

## 利益の確保 Making Profit

- 01 編集方針
  - 03 トップメッセージ
  - 04 企業活動概要
  - 05 グループ・会社概要
  - 07 経営理念と CSR
  - 08 CSR体制
  - 09 ガバナンス / コンプライアンス / リスクマネジメント
- 
- 11 働きやすい職場づくり
    - VOICE 育児・介護支援の取り組み
  - 13 労働安全衛生の取り組み
  - 14 品質保証の取り組み
  - 15 株主・投資家とのかかわり
  - 16 地域社会とのかかわり
- 
- 17 環境理念・環境方針
  - 19 環境マネジメント
  - 20 環境中期計画
  - 21 CO<sub>2</sub>排出量・水資源使用量・廃棄物排出量削減の取り組み
  - 22 マテリアルフロー
  - 23 サプライチェーンマネジメント
  - 24 TOPICS 第9回世界環境会議
  - 25 環境に配慮した製品・技術
  - 26 VOICE 解析技術による軽量化の追求
- 
- 27 グローバルでの取り組み
  - 31 TOPICS F&P Mfg., Inc. ( F&P / カナダ オンタリオ州 )
  - 34 データ集

### ■ 報告対象期間

2018年度（2018年4月～2019年3月）の実績と一部期間外の内容を含みます。

### ■ 報告対象組織（ P5）

株式会社エフテック [報告対象拠点 3拠点]

海外子会社 [報告対象組織 12社 14拠点]

### 将来の予測・計画・目標について

本報告書にはエフテックグループ上記「報告対象組織」の将来に関する予測についても記載しています。

これらの記載は、記載した現時点での情報に基づいた予測であり、確定的なものではありません。そのため将来の事業活動の結果が、本報告書に記載した予測とは異なる場合があります。

## "Back to Basics, Challenge for New" の方針のもと 基礎を固め、次代への持続的成長に向け準備しています。

### 自動車業界の新たな潮流に対応すべく 絶え間ない技術革新に挑戦しています

自動車業界は、EVや自動運転など大きな転換期を迎えています。当社グループでは、この変化に対応すべく、2017年度から開始した第13次中期経営計画の全社方針を「Back to Basics, Challenge for New」と定め、目標達成に向け取り組んでまいりました。これは、事業活動全般に求められる基本を、今一度原点に立ち返り見つめ直すとともに、未来に向かって持続的に成長する為に必要な、新たな領域への挑戦に覚悟をもって取り組む決意表明に他なりません。

グループでのCSR活動推進、業務プロセス改善、独自技術開発などに取り組み、事業基盤の強化を図っています。今後も、変化する事業環境の中で発生する課題一つひとつにしっかり向き合い、解決につながる取り組みを一步一步進めていくことで、持続的成長の実現に向かって前進してまいります。

### エフテックグループは 環境保全活動をいっそう強化しています

当社グループは、環境問題への取り組みを経営の重要な柱の一つとして位置付けています。2013年10月には、国内の自動車部品メーカーとして初めてISO50001の国際規格を認証取得しました。ISO50001の取得をきっかけにし、エネルギー管理の考え方を進化させ、新たに“Global Ftech Energy Management System”を独自に構築し、体系的な管理を実施しています。クリーンエネルギーの普及促進に積極的に取り組む企業として、国際エネルギーマネジメント賞を受賞したのを始め、国内外問わず多くの環境関連表彰を受けています。2018年10月にはシンガポール政府から招待され、国際環境会議EENP2018において、同国の中小企業400社に対し当社の環境取り組みを紹介させていただきました。

当社グループでは、2017年に新たに2030年に向けたグローバル環境目標を設定しました。2009年からグループ全体での環境会議を継続開催し、様々な環境課題への対処、解決手法を共有するとともに、グローバルでの環境管理体制の強化を図り、いっそうの環境負荷低減につとめています。(P19-24)

### 「コンプライアンス」「働きやすさ」の推進とともに、 CSR推進体制を着実に整備しています

2017年度にスタートした全社CSR委員会活動も2年目となり、コーポレート・ガバナンス、内部統制関連の諸問題を検証し、重要課題の把握とその解決に向けた体制が適切に整備されているかを確認し、問題点の是正を行っています。また、当社グループの一人ひとりがCSRの観点から「真に正しい行動をとっているか」を常に確認する「わたしたちの行動指針」を新たに刷新し、周知徹底を進めています。合わせて、ダイバーシティの促進、ワークライフバランスの充実、働き方改革についても問題意識を高め、誰もが働きやすい職場環境をめざして、社内施設の整備や就業規則の改訂などの施策展開を行っています。(P10-12)

### 強度・耐久性と軽量化が 当社製品の永遠のテーマです

自動車のパワートレインの変化や用途の変化にかかわらず、当社製品に求められる基本要素事項は、強度・耐久性と軽量化の両立です。相反する要求性能を両立させるために、塑性、接合領域では、ハイドロフォーミングや異種金属接合のFSWの展開に加え、高難度塑性加工技術の手の内化やシミュレーション技術を駆使することで、高剛性と軽量化を同時に実現し、高効率に生産する独自技術を確立しました。(P25)

当社グループのCSR活動は、第一歩を踏み出したところですが、今後も“常により良く”を目指し、課題に正面から向き合い、改善活動に真摯に取り組む姿を報告書としてまとめていきたいと考えています。



代表取締役社長

福田 祐一

全グループでの運営強化と体質改善が課題です。

<財務指標>

■売上高

中国を含むアジア地区の自動車販売台数減少の影響はありましたが、日本の得意先への売上及び北米の新規受注の生産が貢献して、前期比4.1%増加。235,361百万円となりました。

■営業利益

前期比4.0%減少で65億円となりました。特に北米地域での雇用環境悪化に伴う労務コスト増や生産効率の悪化、新規車種立ち上げロス等に対して、引き続き運営強化と体質改善に努めています。

■有利子負債残高

新規および既存得意先からの受注に伴う新規投資で増加傾向となっていました。2018年度は新規投資が一段落したことにより、462億円となりました。

■有利子負債依存度

2014年度末に42.6%となりましたが、総資産残高の増加や管理の強化によって、2018年度末には33.7%へと低下しました。

<環境指標>

■CO<sub>2</sub>排出量

目標:2013年度 CO<sub>2</sub>排出原単位比7.5%削減

2018年度実績は原単位0.45t-CO<sub>2</sub>/売上百万円(2013年度比▲10%)となりました。

■水資源使用量

目標:2013年度 水資源使用原単位比5%削減

2018年度実績は原単位3.18m<sup>3</sup>/売上百万円(2013年度比▲1.8%)となりました。

■廃棄物排出量

目標:2013年度 廃棄物排出量原単位比5%削減

2018年度実績は原単位0.023ton/売上百万円(2013年度比▲33%)

項目		単位	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
財務指標	売上高	百万円	172,456	175,579	196,343	197,941	226,060	235,361
	営業利益	百万円	6,725	5,564	6,821	8,035	6,856	6,580
	営業利益率	%	3.9	3.2	3.5	4.1	3.0	2.8
	ROE	%	16.2	6.3	9.1	12.8	12.8	6.9
	有利子負債残高	百万円	44,674	56,570	58,686	59,129	59,508	46,220
	有利子負債依存度	%	40.2	42.6	42.5	40.9	39.5	33.7
環境指標	CO <sub>2</sub> 排出量(原単位)	t-CO <sub>2</sub> /売上百万円	0.50	0.46	0.44	0.48	0.45	0.45
	水資源使用量(原単位)	m <sup>3</sup> /売上百万円	3.24	3.18	3.31	3.42	3.11	3.18
	廃棄物排出量(原単位)	ton/売上百万円	0.035	0.031	0.038	0.045	0.026	0.023

## On the Global Way 世界を結び、世界で創る

1947年に金属加工業として創業したエフテックは、1967年に自動車部品の製造に参入、以後半世紀以上にわたって自動車産業の発展とともに歩み続けてきました。1986年に初めて海外に現地法人を設立し、その後世界各地に生産拠点を拡大、グローバルネットワークを構築して参りました。また、強度・耐久性と軽量化を同時に成立させるなど自動車メーカーが求めるニーズに対して、様々な独創的技術を開発。世界有数の自動車メーカーから高い評価と確かな信頼をいただいております。

今後も地域社会への貢献を念頭に、つねに新たな付加価値を生み出し、業界を率いるグローバルカンパニーとして、圧倒的に競争力の高い製品提供をめざして参ります。

### Global Network 世界9か国、11生産拠点、7開発拠点で

北米、アジア、中国に最新鋭設備をもつ生産拠点を展開するだけでなく、各地域に開発拠点を設置してお客様ニーズへの即応体制を整備。品質・開発・生産・環境などあらゆる面で情報交流を進め、グループ全体のレベルアップを図っています。



- ● ● ..... 連結子会社
- ..... 関連会社
- ..... 駐在員事務所

★国内事業所、○国内グループ会社、●海外グループ会社、報告対象組織◎

#### 株式会社エフテック [報告対象拠点 3拠点]

- ★本社・久喜事業所[埼玉県久喜市] ◎
- ★芳賀テクニカルセンター[栃木県芳賀郡芳賀町] ◎
- ★亀山事業所[三重県亀山市] ◎
- 設備センター[埼玉県加須市]

#### 国内グループ会社 [報告対象組織 4社]

- フクダエンジニアリング株式会社[埼玉県加須市] (FEG) ◎
- 株式会社九州エフテック[熊本県山鹿市] (QFT) ◎
- 株式会社リテラ[埼玉県秩父郡小鹿野町](リテラ) ◎
- 株式会社城南製作所[長野県上田市] (城南製作所) ◎

#### 地域セグメント別従業員数(人)



#### 海外グループ会社

- F&P Mfg., Inc. [カナダ オンタリオ州](F&P) ◎
- Dyna-Mig, A division of F&P Mfg., Inc. [カナダ オンタリオ州](DYNA-MIG) ◎
- F&P America Mfg., Inc. [アメリカ オハイオ州](F&PA) ◎
- F&P Georgia, A division of F&P America Mfg., Inc. [アメリカ ジョージア州](F&PG) ◎
- F.tech R&D North America Inc. [アメリカ オハイオ州](R&DNA) ◎
- Michigan Branch Office [アメリカ ミシガン州]
- F.tech R&D North America Inc. European Branch [ドイツ デュッセルドルフ市]
- F.E.G. DE QUERETARO S.A. DE C.V. [メキシコ ケレタロ州](FEGQ) ◎
- F&P MFG., DE MEXICO S.A. DE C.V. [メキシコ グアナファト州](FPMX) ◎
- F.tech Philippines Mfg., Inc. [フィリピン ラグナ州](FPMI) ◎
- F.tech R&D Philippines Inc. [フィリピン ラグナ州](FR&DP) ◎
- F.tech Mfg., (Thailand) Ltd. [タイ アユタヤ県](FMTL) ◎
- PT.F.TECH INDONESIA [インドネシア カラワン県](FTI) ◎
- 偉福科技工業(中山)有限公司 [中国 広東省] (FTZ) ◎
- 偉福科技工業(武漢)有限公司 [中国 湖北省] (FTW) ◎
- 煙台福研模具有限公司 [中国 山東省]
- 偉福(広州) 汽車技術開発有限公司 [中国 広州市](FR&DCH) ◎
- F.tech Inc. Office UK [イギリス ロンドン]
- Johnan America, Inc.
- Johnan De Mexico, S.A.de C.V.
- Johnan UK Ltd.
- Johnan F.tech (Thailand) LTD.
- PT.JFD INDONESIA
- 城南武漢科技有限公司
- Progressive Tools & Components(P)LTD.

※煙台福研模具有限公司及び新規設立したMichigan Branch Office及びEuropean Branch Officeは量産工場ではなく、環境に関して重要な影響をおよぼしていないため報告対象外としています。

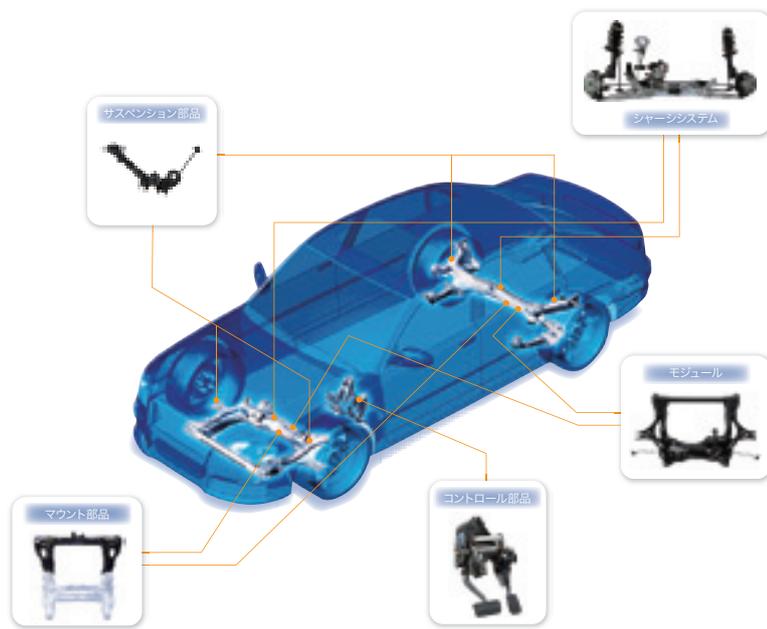
## 会社概要

会社名	株式会社エフテック
本社所在地	埼玉県久喜市菖蒲町昭和19番地
創立	1947年7月1日
資本金	67億9,037万円
代表者	代表取締役社長 福田祐一
従業員(連結)	10,195人
事業内容	自動車部品及びそれに伴う金型、機械器具等の開発・製造・販売

主要取引先	本田技研工業株式会社 General Motors Company 日産自動車株式会社 株式会社本田技術研究所 日産車体株式会社 三菱自動車工業株式会社 スズキ株式会社 Toyota Motor Manufacturing 他
-------	--

## Our Products 足廻り専門メーカーのトップランナーへ

サスペンションアーム、サブフレームやペダルなど、自動車の重要保安部品である足廻り部品を、高い設計技術力と独自の一貫加工体制で製造。自動車メーカーに求められる高い品質を確保しつつ、強度・耐久性と軽量化を同時に成立させています。



### ■最先端加工技術

ハイドロフォーミング、FSW (摩擦攪拌接合) 技術に加え、最適な増肉減肉を可能にした超精密塑性加工技術FUT-1を開発しました。

### ハイドロフォーミング

求める形状の凹型にパイプ材を入れパイプ内部に液圧をかけ閉断面形状を成形する加工法。プレス工程数、金型、溶接工程の削減と製品強度剛性の向上と軽量化を実現しました。



### ■設計技術力

独自の解析技術を駆使して、走行時の足廻りなど製品性能予測に基づいた開発を推進しています。



### FSW

スチール材とアルミ材を摩擦攪拌により接合する技術を新開発。ハイブリッド構造とする事で軽量化と高剛性化を実現。製造エネルギー削減や環境にもやさしい接合技術です。

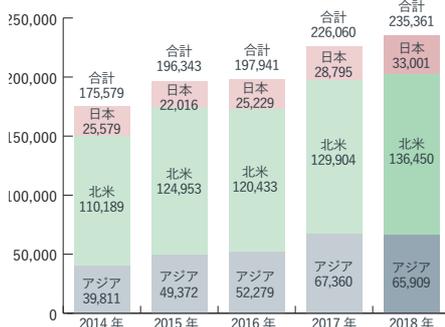


### FUT-1

厚板精密せん断加工技術を確立し究極の材料歩留まりと後工程レスによる超精密塑性加工技術です。



### 地域セグメント別連結売上高(百万円)



## 社 是

わたしたちは世界的視野に立ち、高い志と誠をもって価値を創造し、  
国家社会に貢献すると共に豊かな未来を築く事に全力を尽くす。

## 理 念

Challenging Spirit  
チャレンジ精神

Respecting People  
人間尊重

Making profit  
利益の確保

## 私たちの行動指針

### ■法令の遵守

わたしたちは、あらゆる行動において倫理的に正しい行為を最優先に考えます。常に、法令・ルールを遵守し、遵法精神が高い企業であるために社会的良識を持って行動します。法令・ルールに違反する行為、違反のおそれのある行為を発見した場合には、所属長または企業倫理改善提案窓口にて報告、提案、相談します。

### ■人権の尊重

わたしたちは、働く全ての人々を尊重し、いやがらせや差別、児童労働、強制労働など、人権侵害につながる行為は行いません。

### ■労働と安全衛生

わたしたちは、安心して働ける労働環境、労働条件を維持し、安全で衛生的かつ働き甲斐のある職場環境づくりを行います。

### ■品質

わたしたちは、製品・サービスの品質と安全性を最優先し、定められた基準や手順を誠実に遵守し、お客様の期待に応えます。

### ■社内規則の遵守

わたしたちは、コミュニケーション豊かで平等・健全な職場環境を築くために、社内規則の制定趣旨を正しく理解しこれを遵守します。

### ■交通安全

わたしたちは、自動車部品の生産に携わる者として交通ルールを守り、譲り合いの精神で模範となる安全運転に努めます。

### ■環境保全

わたしたちは、地球が人類の財産であることを理解し、生産にかかわる資源エネルギーの効率的活用と環境負荷の最小化を図り、地球環境の保全に努めます。

### ■企業価値の拡大

わたしたちは、企業の存続が価値の創造であると捉えて社会に存在を認められる企業価値の拡大-長期継続的な利益確保-に努めます。

### ■情報の管理と開示

わたしたちは、個人情報や機密情報と開示すべき情報を峻別し適切に管理します。開示すべき情報は法令・社内規則に従い適時適切な開示に努めます。

### ■公正な取引

わたしたちは、不合理な商習慣には従わず、社会通念を超える利益供与や便宜、政治・行政との不透明な関係や反社会的勢力との関係を否定し、自由・公正・健全な取引を行います。

### ■コミュニティへの参画

わたしたちは、地域・社会の一員として、生活、文化、教育、福祉向上の為の活動等に積極的に参加し、平等で豊かな社会づくりを目指します。

## CSR の考え方

わたしたちは、わたしたちの事業活動が、社会と環境に影響を及ぼすことを十分に理解し、  
社是、理念、行動指針のもと、責任をもって行動し、持続可能な社会・環境づくりに貢献して参ります。



## グループ全体でCSR推進体制の 着実な整備をめざします。

### 全社CSR委員会で、各委員会の活動を 集約・活性化を図ります。

当社はグローバル企業として、日本、北米地域、アジア大洋州地域などで事業活動を展開していますが、各地域における社会的責任を十分理解しつつ活動につとめています。

国内外の事業所、子会社、関連会社は環境保全活動に取り組むとともに、年1回グループ内で開催される世界環境会議において情報共有を図っています。

また、環境以外の側面についても、当社グループにおける製品品質保証や労働安全についての分析や改善策、ガバナンス、コンプライアンス、従業員の働き方など、様々な取り組みを発信することで、グループ全体での共有化を推進しています。

こうしたCSRの活動をグループとして統一化し、グループ全体としてのシナジー効果を発揮するため、2017年10月に全社CSR委員会をスタートしました。全社CSR委員会では社是、理念、行動指針のもと、テーマごとに設置されている委員会や関連部門が行っている活動内容を共有化しつつ、グローバルでのCSR活動のいっそうの活性化を図っています。

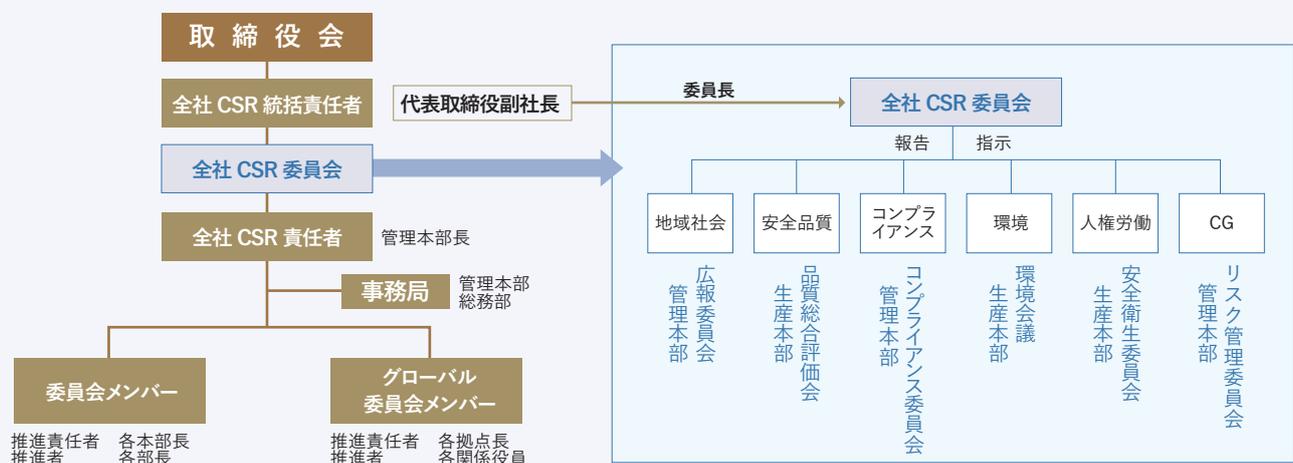
### 「新CSR検証シート」で、 全グループのレベルを底上げします。

全社CSR委員会発足前は、リスク管理委員会で「コーポレート・ガバナンス」「リスク洗い出し」の2種の検証シートを作成し、国内外各社・各部門への調査を実施してきました。

2018年度は全社CSR委員会で、上記2種のシートにESG検証項目を含めて「新CSR検証シート」として統合し、国内のみならず海外グループ会社にも同一シートで調査を実施しました。現在、各社各部門で抽出された課題および対策について、検証を開始したところです。すでに、各事業所では抽出したテーマから重要課題を選定し、CSR委員会事務局フォローのもと自律的に改善活動を進めています。

全社CSR委員会では2019年度以降も引き続き、グループ全体でのレベルアップを重要課題ととらえ、CSRへの理解度向上、各社各部門の課題の共有化および解決などフォローを進めます。

### ■全社CSR体制図



## サステナビリティ向上のため、積極的にコーポレート・ガバナンスの充実に取り組みます。

### コーポレート・ガバナンス体制

当社グループは、株主、取引先、債権者の皆様、地域社会、従業員など、多くのステークホルダーを重視する経営をめざしており、会社の永続性と長期的な株主利益の最大化を図ることをコーポレート・ガバナンスの基本目標にしています。

当社の取締役会は、取締役11名（うち社外取締役2名）で構成されており、会社の経営上の意思決定機関として、重要な業務執行および法定事項の決定を行うほか、業務執行の監督も行っています。当社は、経営の監督と業務執行機能を分離し、取締役会における意思決定と監督機能を強化すること、および業務の迅速な執行を図ることを目的として、執行役員制度を導入しています。

また、経営の監視を客観的に行うため、独立性の高い社外取締役2名を選出し、外部の視点を取り入れ経営に活かしております。なお、取締役については、経営環境の変化に機敏に対応できるよう、任期を1年としています。

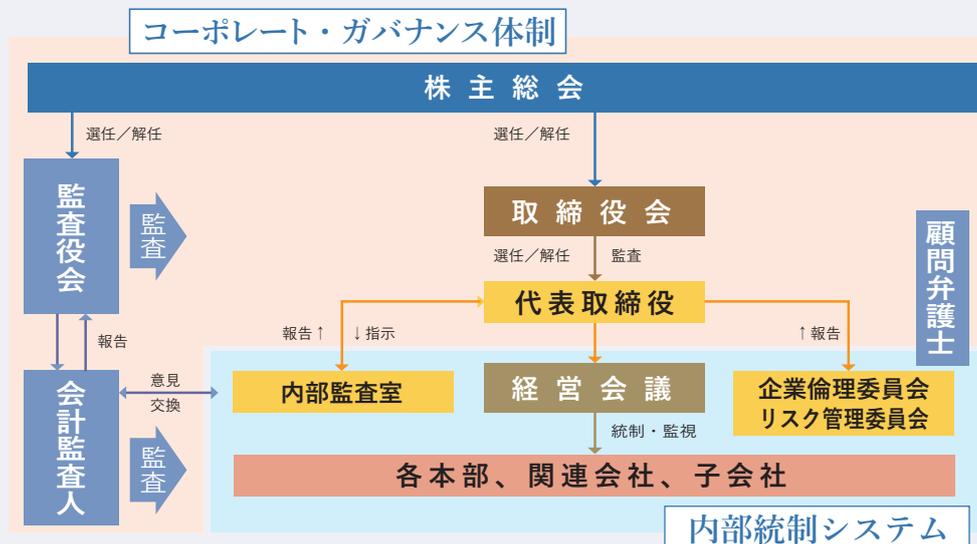
当社は、監査役会設置会社であり、監査役会は監査役4名（うち社外監査役2名）によって構成され、各監査役は、監査役会が定めた監査の方針および業務の分担等に従い、取締役会への出席や業務および財産の状況調査等を通じ、取締役の職務遂行監査を行っています。

### コーポレートガバナンス・コードへの対応

東京証券取引所が定めたコーポレートガバナンス・コード（2015年6月1日／改定2018年6月1日）への対応については、当社の考え方を「エフテックコーポレートガバナンス・ガイドライン（2015年11月1日／改定2018年11月29日）」に定め、対応状況をホームページにて公開しています。なお、2019年6月現在のエクスプレイン項目は以下のとおりです。

#### 【補充原則4-2-1】 経営陣報酬のインセンティブ （現金報酬と自社株報酬の設定割合）

現在、当社の役員報酬においては、毎月固定額を支給する月額定額報酬と単年度業績により変動する役員賞与を基本としております。取締役、執行役員、および監査役（社外取締役、社外監査役は除く）は、固定報酬額のうち一定金額を、自社株を取得できる役員持株会制度に拠出し、自社株を取得しており、株主と利害関係を共有することで、会社の持続的成長と中長期的な企業価値向上につとめております。中長期的な業績と連動する報酬や自社株報酬等の導入につきましては今後必要に応じて検討して参ります。



## 【補充原則4-10-1】

### 任意の仕組みの活用 (指名、報酬委員会の検討)

当社では、役員等の報酬・指名等の事項を審議する任意の諮問委員会等は設置していません。もっとも、当社では、独立社外取締役等と代表取締役との意見交換会において報酬・指名等を含む重要事項について意見交換を行っております。また、取締役会においては、積極的に独立社外取締役、独立社外監査役を含む取締役、監査役に意見を求め、十分な時間をかけ厳格に審議しております。

### コンプライアンスへの取り組み

当社グループでは、2004年10月に法令や企業倫理等の遵守状況を検証し、その体制の整備と方針の策定を行う「企業倫理委員会」を設置しました。委員会では提案者の保護は当然ながら個別部門では対応できない重要案件について、その対応策を検討し該部門へ改善を指示、常にチェックする体制をとっています。なお、同年11月には法令および規則等の違反行為を未然に防止することを目的とした「わたしたちの行動指針(企業行動規範)」を、2006年6月に企業倫理の向上・法令遵守を基本に置いた「コンプライアンス規程」を定め、コンプライアンス体制を確立しています。さらに、当社グループの従業員が直接会社に通報や相談ができる「企業倫理改善提案窓口」を設置しました。その後は2015年9月に「コンプライアンス委員会」を新たに設置したほか、匿名での受付も可能な「社外提

案窓口(顧問弁護士事務所内)」や「監査役・社外取締役提案窓口」を設置し、複数の窓口を設けることにより提案しやすい環境を整えています。

特に「わたしたちの行動指針」については2019年3月に見直しを行い、より分かりやすく改訂した冊子を全従業員に配付、取締役や従業員を対象としたコンプライアンス研修も継続して行われており、コンプライアンスへの取り組みは益々充実しています。

### リスク管理への取り組み

当社グループでは、各担当部門が専門的な立場で管理責任者を設け、業務執行に係るリスクを認識し、損失の危機を未然に防ぐ体制をとっています。2006年6月に「リスク管理規程」を定め、リスク管理体制を整備しました。また、大規模災害等の不測の事態が発生した場合は、管理本部内に社長を本部長、副社長または担当役員を副本部長とする対策本部を設置し、顧問弁護士等と協議の上、損害の拡大を防止し、損失を最小限に止める体制としています。2015年9月には「リスク管理委員会」を設置し、全社でのリスク体制をフォローするとともに、顕在化したリスクの改善・再発の防止等を当社グループ各社に展開しました。

2017年6月の「全社CSR委員会」設置以降は、「全社CSR委員会」「リスク管理委員会」「コンプライアンス委員会」の各委員会ともに年2回開催し、年度末には当社グループ会社毎に、業務に応じて作成したチェックリストで自己検証し、新たな対応策について3委員会に報告し、審議のうえグループ全社の検証結果を取締役会で報告しています。この3つの委員会は、当社のコーポレート・ガバナンス、内部統制強化の一環として全社に及ぶ関連の諸問題を洗い出し、リスク統制のフォロー、顕在化したリスクの改善、再発防止策等を当社グループに展開しています。なお、重要な環境課題に関連するリスクの特定、評価及び対処方法についてリスク管理委員会が定期的に取締役会に報告し、その監督を受けています。



## 人間尊重の考え方のもと、 健全で働きやすい環境をめざします。

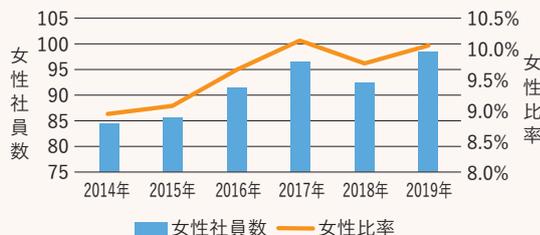
### ダイバーシティの取り組み

#### ◎女性社員の活躍推進

エフテックでは、男女を問わず全ての人が個性と能力を發揮できる職場をめざしています。特に作業の性格上、男性が中心だった製造・エンジニアリング・開発・購買部門では、作業環境が大きく改善され、女性の配置が積極的に進められるなど、全社的にも様々な分野で女性が働けるようになりました。十数年前までは重量のある鉄板を扱うような製造現場では女性が働くことはありませんでした。しかし、現在は女性ならではの視点が求められることも多く、女性技術者への期待も大きくなっています。

今後は女性活躍推進法に基づき、あらゆる分野での女性の進出拡大をめざし、採用・登用および指導者の育成の取り組みを進めていきます。一方、女性の活躍には男性の働き方も見直す必要があります。今後、仕事とプライベートのバランスが図られ、男女ともに充実した社会生活を送ることができるよう環境整備に取り組めます。

【女性比率推移】



#### ◎高年齢(シニア世代)の活躍推進

60歳の定年を迎える社員を対象に、定年後も継続して働ける環境を提供するとともに、ライフプランセミナーなどの年齢に応じた情報提供も行っています。なお、2019年7月からは、定年再雇用者の新たな働き方として、定年者のモチベーション向上と技術継承を目的とした「匠制度」をスタートさせました。これは、高度な技術を持つ熟練者を「匠」(たくみ)として認定し、後継者へ技術を伝承する指導者として重要な役割を担って頂き、責任に応じた報酬制度とするものです。(2019年10月時点:3名)

#### ◎外国人社員の強化とグループ内活性化

エフテックでは、海外拠点との連携強化が不可欠であり、そのためには多様な人材の確保が必要なため、積極的に外国人を採用しており、様々な国籍の社員が活躍しています。また、海外拠点からの短期研修生や外国人技能実習生の受入れ等も推進しています。外国人従業員の業務理解のために、掲示物やマニュアルの多言語化、社内イベントでの交流など、外国人でも働きやすい環境作りにつとめています。

#### ◎障害者の活躍推進

エフテックでは、障害者の積極的雇用に取り組んでいます。また、障害の有無に関わらず個人の能力を最大限に發揮し、やりがいを持って働くことができる環境をめざしています。2018年度から雇用率は上昇しており、現在は法定雇用率2%(20人)に対し2.6%(26人)となっています。

### F-voice 育児・介護支援の取り組み

#### 子どもの成長に合わせて 勤務時間も柔軟に

亀山事業所 生産部 管理課

高原 友美



エフテックグループは、有休取得率をはじめ、産前産後休暇～育児休暇の取得はもちろん、柔軟に時短勤務時間を決めることができるので、子育て世代にとって働きやすい職場だと感じています。

保育園に子供を送るため、所属課での朝礼に参加できず、心苦しい思いをする時期もありましたが、所属課皆さ

らのご配慮で朝礼時間を午前8時30分に変更頂き、より安心して仕事に取り組めるようになりとても感謝しています。

今年長男が保育園年長組、次男が保育園2年目となりました。園での生活にも慣れて友達との遊びが楽しくなってきたようで、夕方迎えに行くとき「もっとお迎え遅くがいい」こんな子供の言葉をきっかけに、自分自身へのチャレンジの意味も込めて就業時間を延ばしました。

今後子どもたちが小学生となれば、子育て環境もさらに変化します。この変化に対してワークライフバランスをどのように保てるかが、これからの自分の課題です。仕事では、事業所総務を極める!ことを目標に、総務全般の業務に対する知識を深めていきたいと思っています。

## ◎ワークライフバランスの取り組み

エフテックでは、「人間尊重」の理念のもと、働く人が生きがいを持って働くためには、充実したプライベートも必要であると考え、ワークライフバランスを重視しています。また、育児・介護対象者だけでなく、一般の社員も含めた「働きやすい会社」を全グループでめざしています。以下にワークライフバランスをめざす取り組み例をご紹介します。

- ・残業時間は月20時間以内を基本に、労使協力して時間を管理し、長時間労働の抑制に取り組んでいます。2018年度の一般社員の月平均時間外労働時間は14時間で、管理職も明確に就業時間管理を行い、長時間労働の削減に努めています。
- ・時効で消滅する年次有給休暇を全社員「0」を目標に、一般社員の有休消化率100%の目標を20年連続達成しています。
- ・2019年度から半日有給休暇制度を年4回⇒年20回取得可へ見直す就業規則の改訂を実施。個人の状況（育児・学校行事・介護・通院等）に合わせた柔軟な対応を可能にしました。
- ・亀山事業所では2018年11月に亀山市主催の講演会にて、「ワークライフバランスの取り組み」について発表しています。



久喜事業所の埼玉県「多様な働き方実践企業」ゴールド認定に続き、2019年10月には三重県から「みえの働き方改革推進企業」に登録されました。

## ◎育児・介護両立支援

育児や介護を行う従業員の環境について理解し合える協力的な職場環境づくりをめざし、2018年度は全管理職を対象に全社的に「仕事と育児・介護の両立支援制度説明会」を実施しました。2019年度以降も新任管理職研修で継続して説明を実施するとともに、全社員に向けて育児・介護に関する情報を社内ポータルサイトで発信します。

女性の育休取得者(30名)のうち2014～2018年度の復帰者は28名でした。(育休取得率100%、復職率94%)そのうち第2子以降の育休を取得した者は18名(51%)で、育休を取得しやすく、復帰しやすい環境が整えられたと考えます。男性の育休取得者も増えつつあり、これまで6名が取得しています。

また育休期間中のサポートを充実させるため、産休前と復帰前の面談制度や休職中の定期連絡を実施。復帰後の育児のための短時間勤務制度は現在17名が利用中です(小学校3年生修了時まで可能)。介護休業は、対象家族1人につき通算最長1年までの範囲内で3回を上限とし取得が可能です。介護休業期間中も、育児休業と同様に面談制度、休職中の定期連絡を実施しています。

## ◎人権啓発のための取り組み

当社では、理念にもある「人間尊重」の観点から、社員が人間を尊重し、児童労働、強制労働を含む各ハラスメント等の発生を防止するため、毎年従業員に研修を実施し、遵守状況を確認しています。

また、人権侵害やコンプライアンス上の問題が発生したと思われる場合に匿名で相談できる通報窓口を社内外に設け、相談しやすい雰囲気、風通しの良い職場づくりにつとめています。

## F-voice 育児・介護支援の取り組み

### 男性でも育休を取得しやすい環境をつくりたい

フクダエンジニアリング(株) (FEG)  
管理課試験係

豊田 裕太



エフテック部品 (SUS/MT) の量産前の強度・耐久試験をやっています。試験係の良いところは、エフテックの色々な拠点の部品に携われるところです。また、試験だけでなく、部署内の消耗品、修繕費の管理、見直しによるコストの削減にも取り組んでいます。

育児休暇取得は、1人目出産時に、産後1ヶ月の妻

の体調が悪かったためです。当時は、FEGで、男性の育休取得は初めてでしたので、取得前は自分の仕事を残さないように心がけました。

お陰様で妻の体調も戻り、子供も元気に育ち、職場に復帰することができました。でも、スムーズに仕事に戻れるか少し不安でした。

今後は、男性でも育休、時間短縮勤務などがもっととりやすい環境になればいいな、と思います。そのためにも取得経験者としては、率先して業務の効率化に取り組むとともに、新たな試験分野にどんどんチャレンジして技術・知識を磨きたいですね。



## グループ各拠点で、 顧客満足レベル向上を推進します。

第13次中期経営計画のもとで、“世界TOPレベルの高品位水準”の達成をめざし、お客様に最高の価値を提供するためグループ全体の目標を設定し、品質向上展開活動を推進しています。

2018年度は、13次中期経営計画の中間年度として、「①ZD(不具合ゼロ)活動、②未然防止活動、③北米拠

点品質改善展開」に取り組んできました。その結果、各グループ生産拠点の活動の成果が認められ、顧客から表彰される拠点が増えてきました。2019年13次中期経営計画最終年度も“グループ全体で、最大の顧客満足”を達成することにつとめて参ります。

生産拠点	表彰実績	生産拠点	表彰実績
タイ； F.tech Mfg., (Thailand)LTD. [FMTL] Award of Quality		カナダ； F&P Mfg.,Inc. [F&P] Excellence in Delivery and Quality Award	
フィリピン； F.tech Philippines Mfg.,Inc. [FPMI] Excellence in Quality		カナダ； F&P Mfg.,Inc. [F&P] Service Parts Award	
アメリカ； F&P America Mfg.,Inc. [F&PA] Certificate of Excellence		中国； 偉福科技工業 (中山)有限公司 [FTZ] 品質優秀賞	
カナダ； Dyna-Mig, A division of F&P Mfg.,Inc. [DYNA-MIG] Certificate of Excellence		日本； 久喜事業所 [QFT] 優良品質感謝状	

## 適時・適切な情報開示と 建設的な対話の充実につとめます。

当社では「株主との建設的な対話に関する方針」をエフテックコーポレートガバナンス・ガイドラインに定め、適時・適切な情報開示につとめています。

### 適切な情報開示

(エフテックコーポレートガバナンス・ガイドライン 第14条)

当社は、株主を含む全てのステークホルダーからの信頼関係の構築に努め、情報開示は、法定開示のみにとどまらず、経営方針や財務状況、事業の取り組みなどの情報、経営陣幹部の選解任及び取締役・監査役候補の指名を行う際の、個々の選解任・指名の理由等を公正かつ分かりやすく開示し、経営の透明性を確保する。

### 株主との建設的な対話

(エフテックコーポレートガバナンス・ガイドライン 第34条第1項)

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値向上を図るためには株主との建設的な対話が不可欠であるとの認識のもと、双方向の対話の充実を努める。

### 【株主との建設的な対話に関する方針】

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上のためには株主との建設的な対話が不可欠であることを認識し、対話に当たっては以下の方針で臨むものとする。

- ・株主との対話は合理的な範囲で代表取締役社長、IR担当役員等、経営陣またはIR担当部門の管理職が行うものとする。
- ・IR担当部門は、社内との関係部門と連携体制を構築し、建設的な対話を実現する。
- ・中期経営計画における戦略、投資、当社の重要指標などについて株主に分かりやすく説明を行い、中長期的な企業価値を判断するための情報開示につとめる。
- ・IR担当部門は、個別面談に加え、決算説明会や施設見学会の開催、IRフェアへの参加などIR活動の多様化を図る。
- ・IR担当役員は、対話により自社の方針などを株主に丁寧に伝え、株主から意見を頂いた場合は、取締役等に伝達し共有する。
- ・IR担当役員は、公平な情報開示を徹底するため、社内規程に基づき、未開示の重要情報の管理を徹底する。

### 株主、個人投資家、機関投資家の皆様 とのコミュニケーション

当社は株主、個人投資家、国内外の機関投資家の皆様へ適時・適切な情報開示につとめています。

当社への理解をより一層深めて頂けるよう、株主総会、決算説明会、個人投資家向け会社説明会、施設見学会、1 on 1 ミーティング、電話会議、さらには各種イベントへの出展等、さまざまなコミュニケーション機会を設けています。今後も多くの皆様に当社グループのファンになって頂けるよう努力して参ります。



決算説明会



株主総会



機関投資家向け施設見学会 芳賀テクニカルセンター(左)、亀山事業所(右)



個人投資家向け会社説明会



日経IR・投資フェア(2018年1月)



人とクルマのテクノロジー展(2018年7月)

## 森林づくりや奨学財団を通じた 人材育成支援に取り組みます。

### エフテック森林づくり



### エフテックの森林づくり 2015年～2019年 第一協定期間活動報告

2015年の生物多様性ガイドライン発行にともなって国内でスタートした「エフテックの森林づくり」(埼玉県毛呂山町)は、2019年5月で累計5回目の森林整備活動となりました。全5回の活動で延べ398名の従業員とその家族が参加しました。

活動内容は主に間伐作業です。里山の保全には、木の成長に合わせて適正本数を保つ間伐作業が欠かせませんが、少子高齢化で間伐作業が困難となり、多くの里山が荒廃しています。その結果、森林内に太陽光が届かないことで下層植生が消失し、表土が流出します。また、木の幹が細長くなることで水源のかん養機能低下をもたらします。その結果、近年の異常気象による集中豪雨等で土砂崩れや土石流などの災害リスクにつながっています。

5年の活動の結果、以前は暗かった森林内に多くの光が射し、回を重ねる毎に徐々に木の周りに草が生い茂るようになりました。間伐しない場合に比べて、間伐で林内に残って成長した木々の方が、より多くの

### 各地域の環境保全活動



備前堀川クリーンアップ  
(本社・久喜事業所)



アダプトプログラム  
(亀山事業所)



敷地外清掃活動  
(芳賀テクニカルセンター)



工業団地清掃活動  
(本社・久喜事業所)

CO<sub>2</sub>を吸収するといわれ、CO<sub>2</sub>排出量削減にもつながります。

2019年度をもって埼玉県や埼玉県農林公社との現協定期間最後の活動となりますが、継続的な実施に向けて調整しています。(参加:本社、久喜事業所、芳賀テクニカルセンター、株式会社リテラ、フクダエンジニアリング株式会社)

### 生物多様性への取り組み状況

2017年度から国内の目標は「従業員に対して延べ人数で25%以上」と強化し、多くの従業員の協力によって2018年度も目標を達成しました。

	目標	実績
国内拠点	拠点従業員 参加率:25%以上 (延べ206名以上)	参加率:43% 延べ参加人数:358人 活動拠点:3拠点 活動数:11
グループ	生物多様性への 取り組みの継続	延べ参加人数:597人 活動拠点:12拠点 活動数:17

### エフテック奨学財団

エフテックでは、未来を担う高い志と学業意欲を持った大学生及び大学院生の支援を目的として、2016年にエフテック奨学財団を設立しました。2017年には公益財団法人となり、毎年30名程度の募集を継続しています。日本・アジア地域の地位向上、文化、技術、学術の発展に寄与する有用な人材育成を通して、微力ながら社会への貢献をめざしています。



## 自動車のライフサイクル全体を意識した 環境負荷低減に取り組みます。

### 環境に対する基本的な考え方

エフテックは自動車の足廻り部品の製造業として、設計・開発から製造、販売までを自社の一貫加工体制の中で安全性に配慮し、長年技術を培ってきました。

今、低燃費自動車をはじめ、電気自動車やハイブリッド車のバッテリー等の重量のある自動車の販売が主流になりつつあります。各自動車メーカーから「期待される企業」として選ば続けられるためには、自動車の低燃費性能に寄与する安全・軽量かつ環境に配慮

された製品を、いかに量産対応できるかが課題となり、その市場のニーズに応じて参りました。

自動車は、調達から研究開発、生産、輸送、車としての使用、廃棄段階に至るまで多量の環境資源を必要とします。当社は、こうした自動車のライフサイクルの中に、自らの事業活動があることを自覚し、すべての事業活動において環境負荷低減に積極的に取り組むことが、持続可能な社会に貢献すると考えています。

### エフテック環境理念

当社は、自動車産業の環境トップランナーを目指し、従業員一人一人が地球環境問題に対する正しい認識を深め、企業活動の全域において継続的な環境保全活動を積極的に励行することにより、低炭素で自然豊かな未来を築く事に全力を尽くします。

### エフテック基本方針

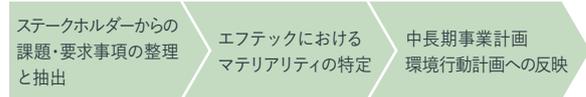
- (1) 持続可能な社会を形成するために当社の足回り自動車部品の製造に関わる全ての事業活動において環境負荷低減と生物多様性の保全に関して取り組みます。
  - ・製品のライフサイクル全体で環境負荷低減に取り組みます。
  - ・開発領域では製品の軽量化によって走行時のCO<sub>2</sub>を削減します。
  - ・全ての事業活動において省資源、省エネルギーを実施します。
  - ・全ての事業活動において廃却物のゼロエミッションを継続します。
  - ・生物多様性の保全へと繋がる社会貢献活動に取り組みます。
- (2) 環境・エネルギーに関する法令、及びそのほか同意する要求事項を順守します。
- (3) 環境・エネルギーマネジメントシステムの継続的改善と汚染の予防に努めます。
- (4) 環境・エネルギー目標を設置し、定期的に見直しを行います。
- (5) 環境・エネルギー目標達成するための情報並びに必要な資源を利用できることを確実にします。
- (6) 省エネルギー活動及び環境保全活動を通じて環境意識の高い人づくりを行います。
- (7) エネルギー効率の良い製品、設備の導入やサービスの活用に努めます。
- (8) 事業活動に関する環境情報は適切に開示します。

## 環境領域における重要課題マップ

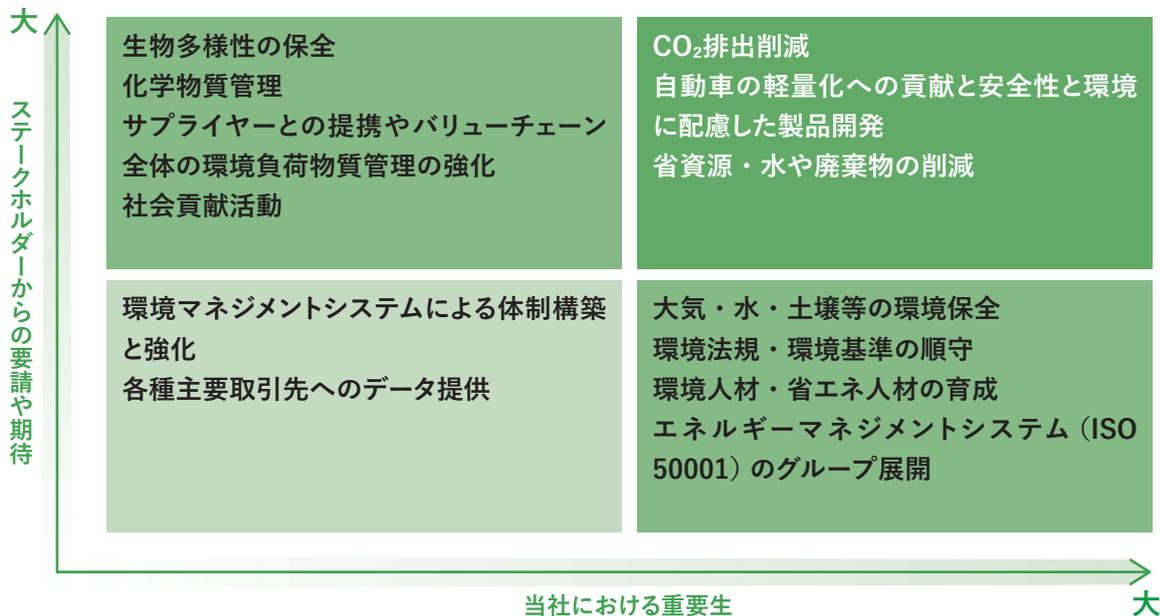
エフテックでは、環境への取り組みについて、顧客や地域社会等のステークホルダーからの要請や期待を考慮して重要課題を抽出しました。抽出した重要課題については、当社の事業上の重要度と現在の取り組み水準と照らし合わせマテリアリティを特定し、当社中

長期事業計画に反映しています。

### 重要課題特定のプロセス



## 重要課題マップ



## 環境重要課題

エフテックでは、持続可能な社会の実現にむけて「CO<sub>2</sub>排出削減」「大気・水・土壌等の環境保全」「省資源・水や廃棄物削減」「化学物質管理」「環境に配慮した製品開発」「生物多様性の保全」を重要な環境課題として捉え、環境負荷低減に取り組んでいます。

中でも「CO<sub>2</sub>排出削減」「水資源の削減」「廃棄物の削減」については、2017年に「2030年グローバル環境目標」として定量的な目標を設定しました。

この「2030年グローバル環境目標」を掲げることで、課題を明確にし、グループ全体で課題解決を推進することで、当社環境理念である自動車産業における「環境トップランナーの実現」をめざします。

## 2030年グローバル環境目標

- CO<sub>2</sub> 排出原単位 ▲ 26%改善  
基準年:2013 年度比 指標:売上高
- 水使用原単位 ▲ 17%改善  
基準年:2013 年度比 指標:売上高
- 廃棄物原単位原単位 ▲ 17%改善  
基準年:2013 年度比 指標:売上高

※CO<sub>2</sub> 排出 対象:工場内で使用されたエネルギー  
対象外:物流、社用車、溶接 CO<sub>2</sub> ガス  
※温室効果ガス排出、水資源使用と整合性を高くするため、売上高にはグループ間取引分を含めています。

## ISO50001のグループ展開を核に マネジメント体制の充実を図ります。

### オールエフテック環境マネジメント体制

当社グループは環境問題を企業が取り組むべき最重要課題の一つと考えます。国内では1998年からISO14001の認証取得に向けて取り組みを開始。海外の生産拠点でも2009年には認証取得を完了し、新たに設立したメキシコの実地拠点でも、2017年5月に認証登録が完了しています。

### 組織体制

当社グループでは、2008年から環境管理体制の構築をスタートさせました。海外拠点の拠点長を責任者として拠点毎に実務担当者を設置し、環境組織体制を整備しています。(下図参照)

### 環境法令の遵守状況

当社の環境理念のもと、生産拠点に対してISO14001を導入、かつ環境改善活動を継続的に推進し、各国や地域の規制や利害関係者の要求事項遵守につとめています。なお、環境関連の重大な法令違反や罰金等の支払い、重大な事故の発生はありません。

### 環境教育

当社では、2008年に環境グローバル展開がスタートして以降、2013年にISO50001の認証取得を皮切

りに2015年からグループ共通のGlobal Ftech Energy Management Systemを発行し、当社グループ拠点に対してISO50001の展開を進めています。このISO50001の成功の鍵がエネルギー診断です。設備や省エネの知識を基に診断や分析を実施できるエネルギー診断者には高い専門性が求められるため、その核となる人材を育成していく事が急務と考えています。

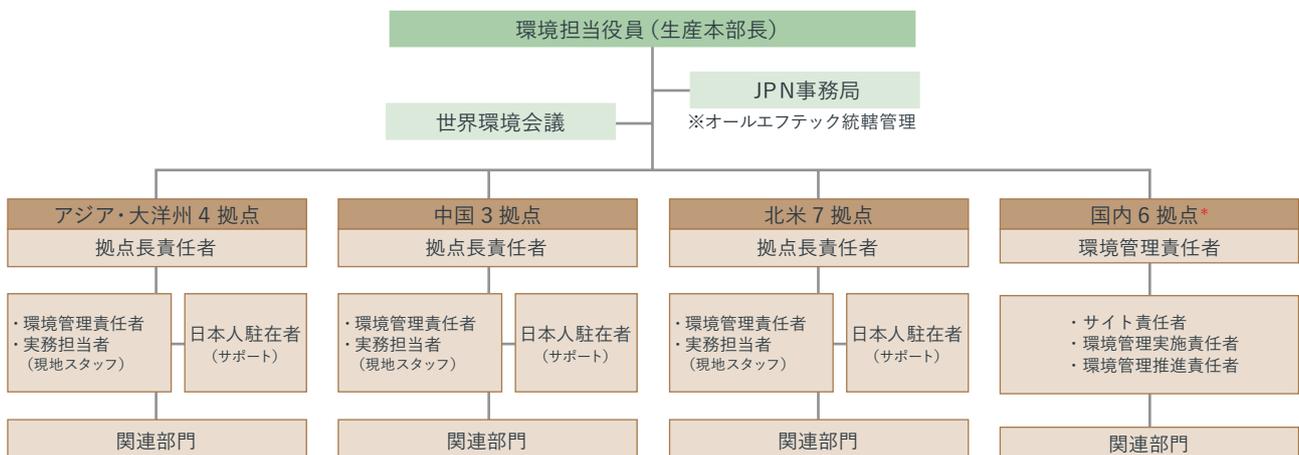
現在、ISO50001の推進にあたる人材を「省エネコア人材」として、グローバルで育成していく計画で、2019年度の世界環境会議でも、省エネコア人材育成は主要施策の一つとなっています。

### 内部環境監査

当社の環境グローバル展開においては、ベースとなる日本拠点の環境マネジメントシステムおよびエネルギーマネジメントシステムが、システムや規格との適合性を確保する事が重要であり、その確認のため内部環境監査を定期的実施しております。

当社では、有効な監査を行うために、内部環境監査員講習を定期的開催し、継続的に監査員の拡大につとめています。さまざまな部門の監査員が監査に参加することで、公平性の高い監査を実施しています。2018年度の内部監査では 昨年比7名増員の35名の監査員が内部監査に参加しました。

### ■エフテックグループ環境管理体制



\*国内6拠点については国内子会社を含みます。

## ノウハウを共有しグループ全体で レベル向上をめざします。

### ■第13次中期経営計画(環境領域)の進捗状況

当社では、国内事業所がグループ全体をリードする形で環境計画をグループへ展開しています。そのノウハウをグループで共有するとともに、国内事業所も海外拠点の取り組みも取り入れつつ、グループ全体で環境負荷削減取り組みのレベルアップにつとめています。

その核となるのがISO50001の展開\*です。2015年に北米のF&PA、2016年に中国のFTZ、FTWへの展開を完了し、現在アジア地域タイのFMTLに展開中です。中期計画では、2018年度に完了する計画でしたが、2016年に従来のISO/TS16949に替わる、自動車産業品質マネジメントシステムを対象とする国際規格IATF16949が発行されたことによる規格変更への対応や、FMTLと本社支援部門による開始時期調整から2019年度に完了する予定です。

2019年度は、既に完了している3拠点から各近隣

地域への展開を計画していますが、本社からの環境VISITによる支援や、拠点毎にエネルギー改善のプロセスに精通した人材育成が急務であると考えています。

そこで、「ISO50001の海外展開」とともに「省エネコア人材育成」を主要施策として推進していきます。特に海外生産拠点でのいっそう自立した環境活動は、グローバル環境目標の達成に向けて不可欠であると考えます。

\* ISO50001のグループ展開: 当社では、2013年10月に三重県亀山事業所で、エネルギーマネジメントシステムISO50001認証を国内自動車部品専門メーカーとして初めて取得しました。2015年には亀山事業所での取組みを進化させ当社グループ共通のエネルギーマネジメントシステム「Global Ftech Energy Management System」を発行しました。これは、ISO50001の要求事項を全て網羅し、さらに当社独自のノウハウを追加して策定したもので、これをグループで共有し、全ての生産拠点への水平展開を推進しています。

### ■環境領域13次中期計画(2017~2019)2018年度結果 対象:エフテックグループ(国内6拠点、海外14拠点)

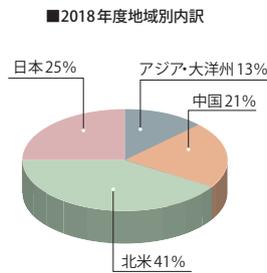
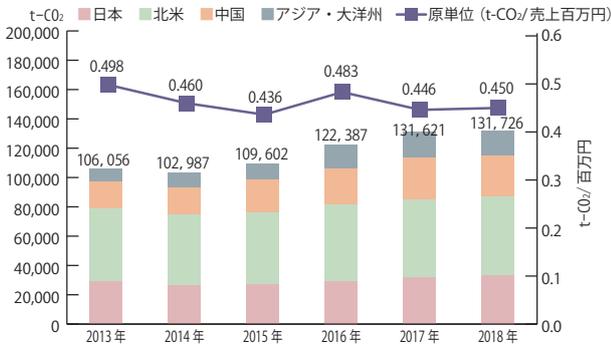
展開内容		時期		
		2017	2018	2019目標
・CO <sub>2</sub> 排出原単位の低減	計画	[6%改善(13年比)]	[7.5%改善(13年比)]	[9%改善(13年比)]
	実績⇒評価	10.5%改善 ⇒○	9.6%改善 ⇒○	
・水資源使用原単位の低減	計画	[4%改善(13年比)]	[5%改善(13年比)]	[6%改善(13年比)]
	実績⇒評価	3.8%改善 ⇒△	1.7%改善 ⇒×	
・廃棄物排出原単位の低減	計画	[4%改善(13年比)]	[5%改善(13年比)]	[6%改善(13年比)]
	実績⇒評価	25.9%改善 ⇒○	32.6%改善 ⇒○	
・生産拠点での環境報告書の発行	計画	[発行準備]	[発行準備]	[社内発行]
	実績⇒評価	発行準備着手 ⇒○	発行準備着手 ⇒○	
・海外ベンチマーク拠点でのISO50001への適合	計画	[アジア大洋州着手]	[アジア大洋州完了]	[北米水平展開]
	実績⇒評価	マニュアル整備完了 ⇒○	2/3支援完了 ⇒×	
・ISO14001(2015年改定版)の認証取得対象:エフテックグループ	計画	[システム構築]	[移行登録]	[継続展開]
	実績⇒評価	残り2拠点 未完了 ⇒△	取得拠点 移行完了 ⇒○	
・新規立上げ量産拠点でのISO14001認証取得	計画	2016年度水準を維持		
・省エネコア人材の育成	計画	[育成カリキュラム企画]	[育成カリキュラム構築]	[トレーナー育成完了]
	実績⇒評価	企画立案完了 ⇒○	プログラム準備完了 ⇒○	
・地域社会への貢献活動	計画	2016年度水準を維持		
・生物多様性の評価(事業活動領域)	計画	[現状把握]	[対策検討]	[ガイドラインのブラッシュアップ]
	実績⇒評価	把握完了 ⇒○	対策検討完了 ⇒○	

○:目標達成、△:達成度70%以上100%未満、×:達成度70%未満  
「開発/エンジニアリング」の目標については機密情報の観点から公表を控えています。

# CO<sub>2</sub>排出量・水資源使用量・廃棄物排出量削減の取り組み

グループ全体でのデータ精度向上につとめます。

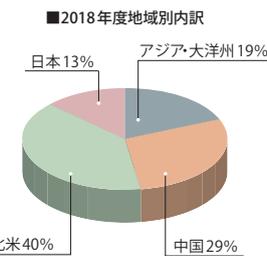
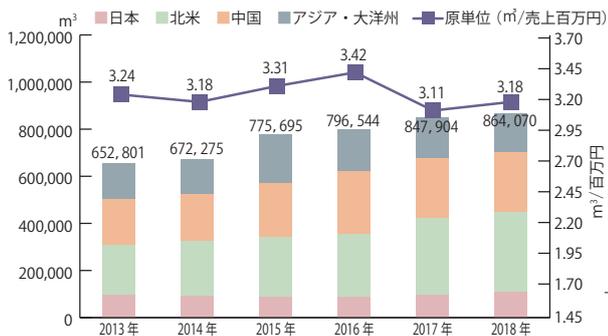
■ CO<sub>2</sub>排出量の実績 目標<2013年度比CO<sub>2</sub>排出原単位7.5%削減> → 実績<同9.6%削減>と目標を達成しました。



CO<sub>2</sub>排出量は、2013年度比で24%増と年々増加しています。昨年比では同程度のCO<sub>2</sub>排出量となり、内訳は排出割合の大きい北米の拠点が昨年度と同等の排出割合に対して、中国・アジア大洋州拠点が微減、日本は生産数増加により排出量が増えました。

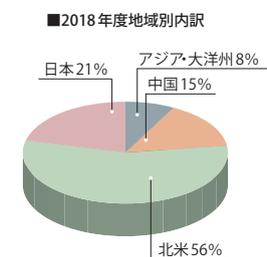
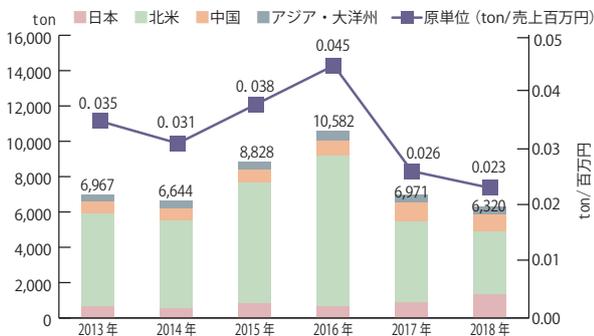
2030年目標を達成するべく、ISO 50001の運用によるエネルギー使用の最適化とともに、グループでの環境活動の施策共有によってCO<sub>2</sub>排出量削減につとめていきます。

■ 水資源使用量の実績 目標<2013年度比水使用量原単位5%削減> → 実績<同1.8%削減>と目標未達となりました。



水使用量は、2013年度比で32%増と年々増加しています。当社グループの水使用量は大半が塗装工程における、製品の洗浄や表面処理、電着塗装、蒸気としての使用で、生産と大きく連動しています。2013年度比を拠点別にみると、アジア大洋州や北米拠点は、水使用改善施策によって原単位では使用量が低く抑えられています。日本や中国拠点では、生産増加を背景に原単位が悪化しています。2018年度は拠点毎に水不足に対するリスク評価を行いました。今後はリスク評価に基づき、日々の使用状況の管理を推進します。

■ 廃棄物排出量の実績 目標<2013年度比廃棄物排出量原単位5%削減> → 実績<同32.6%削減>と目標達成となりました。

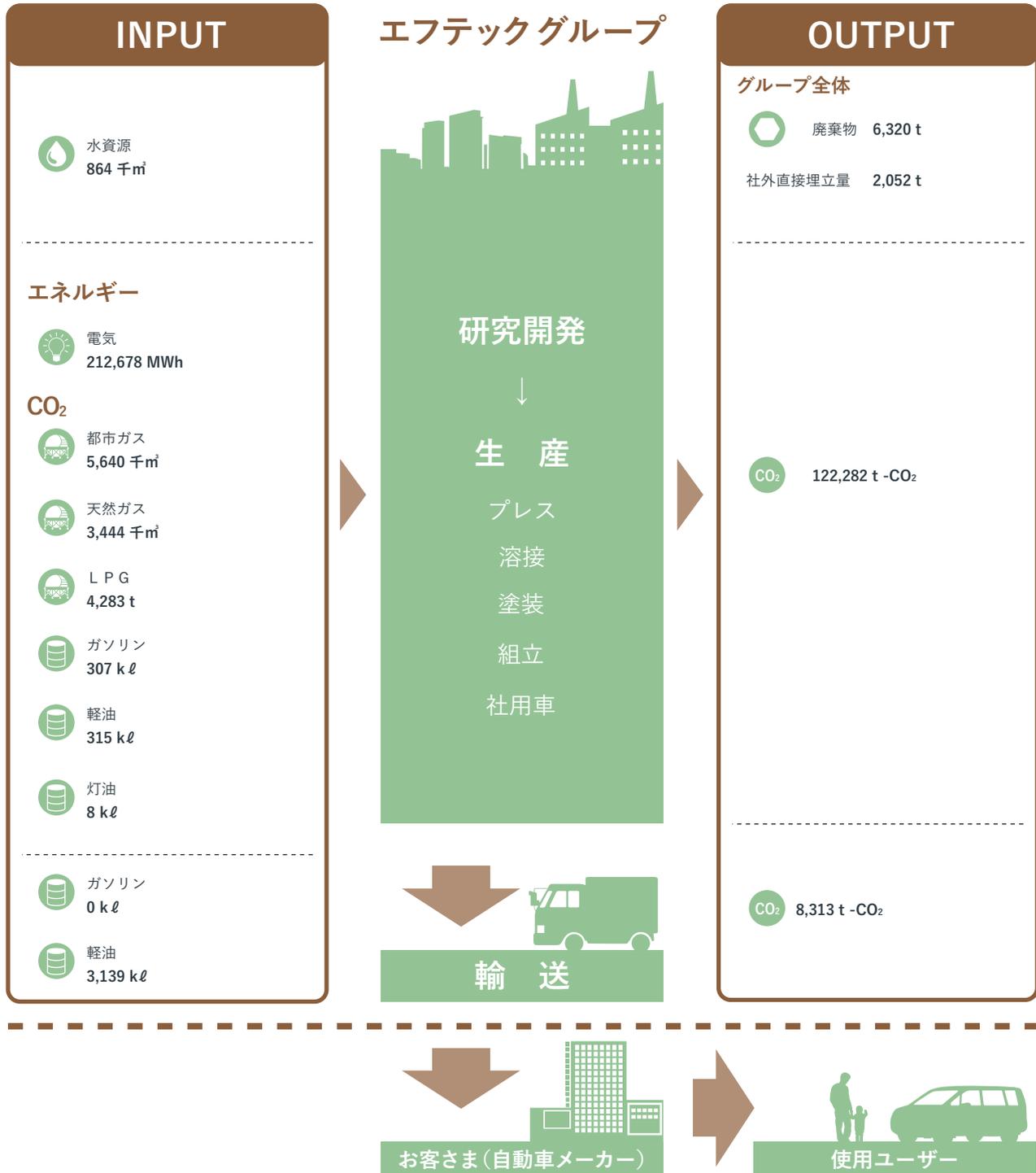


2030年グローバル環境計画の目標設定にともなって、2017年度にグループ内の廃棄物定義を統一しました。しかし一部海外拠点で、廃棄物の中にスクラップ等の有価物も含めるなど、定義の認識が異なった結果、通常の廃棄物量よりも多くの排出実績となりました。

そこで、有価物の定義について改めて徹底し、廃棄物排出量を基準年までさかのぼって確認を行い、直近年度についてはデータの精度向上が完了しました。直近3か年以前については未だ一部拠点での修正は完了していませんが、2019年度には基準・定義の周知徹底の完了をめざしています。

また、これにともなって目標数値についても見直しも検討しています。

※CO<sub>2</sub>排出量は、工場、研究所等で使用されたエネルギーと物流で使用されたエネルギーを対象としています。※日本には、久喜事業所、亀山事業所、芳賀テクニカルセンターの他、国内子会社のデータが含まれています。



- ・ OUTPUTのCO<sub>2</sub>排出量は、INPUTのエネルギー使用量にCO<sub>2</sub>換算係数を乗じて算出しています。
- ・ CO<sub>2</sub>の算出方法は、経済産業省・環境省の「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」とWRI/WBCSD「The Greenhouse Gas Protocol」を参考にしています。
- ・ 国内電力は電力会社ごとの最新の係数をもとに算出しています。
- ・ 対象期間は、2018年4月～2019年3月のデータです。

## バリューチェーンを見据えた 取り組み推進をめざしています。

### エフテックグループグリーン購買の考え方

当社グループでは、環境に配慮した部品・材料や製品を優先して購入するグリーン購買の基本的な考えを「エフテックグリーン購買ガイドライン」として定めています。

2013年7月に約70社のお取引先に配信開始以来、2019年4月現在国内外の当社グループのお取引先61社に対して以下の推進をお願いしています。

- 環境マネジメントシステムの構築
- 環境関連法令の遵守
- 製品含有化学物質管理の実施
- 温室効果ガス排出量の把握と削減

当社グループは、グリーン購買ガイドラインに則り、お取引先とともに、グリーン購買を推進することで、継続的な地球環境保全に努めています。

### 製品含有化学物質管理

当社グループでは、製品含有化学物質規制に対し、各拠点で管理体制を構築しIMDS調査を実施しています。人や環境への有害性があり、法律によって使用が禁止もしくは規制されている物質を「エフテック製品 化学物質管理基準書」に定め、これらの物質の使用を厳しく禁じています。

またグリーン購買活動を通じて、お取引先の理解も得ながら対象物質の排除に取り組み、これらの物質を含まない製品をお客様に提供しています。

### ■ バリューチェーンでの温室効果ガス排出量の把握

国内取引先温室効果ガス排出量



\*GHG…温室効果ガス(greenhouse gas)

### お取引先への働きかけ

#### 購買方針説明会

2019年4月に、お取引先61社に出席いただき購買方針説明会を埼玉県さいたま市で開催し、当社の環境への取り組み事例を紹介しました。また、環境取組状況調査の協力をお願いし、お取引先の状況を把握することが出来ました。今後も開催する説明会において、当社CSRの考え方を説明し取引先にも理解を求めて参ります。

#### ■ 環境取組状況調査

1. 環境負荷物質調査：  
①各エネルギー使用量 ②水資源使用量
2. CO<sub>2</sub>削減目標の設定と達成状況
3. 生物多様性活動状況

### 改善事例

当社ではお取引先に対しても温室効果ガス排出量削減を呼びかけ改善に取り組んでいます。

・使用後は分別可能な資源ゴミとなるペール缶を使用した溶接ワイヤーを購入することで、廃棄する鉄屑を削減。

⇒2,452kg/YearのCO<sub>2</sub>削減『杉の木換算で約175本』

・部品運搬用の台車の仕様を変更し、段積みにすることで積載効率をあげ、輸送便数を削減。

⇒3,044kg/YearのCO<sub>2</sub>削減『杉の木換算で約217本』

### その他

#### 紛争鉱物調査

紛争鉱物問題については、ESG上の主要課題として、コンゴ共和国及びその周辺地域の人権侵害・環境破壊に繋がり、武装勢力の資金源となる紛争鉱物の使用を固く禁じ、経済開発協力機構(OECD)が発行した「紛争地域及び高リスク地域からの鉱物の責任あるサプライチェーンのためのデュー・ディリジェンス・ガイダンス」に沿った調査をお取引先の協力を得て定期的・継続的に実施しています。

2018年10月16日～18日にかけてグループ13拠点31名の担当者を招集し、中国・広東省(中山)において「第9回世界環境会議」を開催しました。今回を含め全9回の世界環境会議を通じて、累計3.5億円相当の環境有効施策を共有し、グループ全体での環境負荷低減および製造原価低減に貢献することができました。今会議で事務局からの発信事項は主に以下の3つでした。

### (1) 「2030年グローバル環境目標」の進捗確認

2017年度実績では、CO<sub>2</sub>排出原単位・廃棄物原単位で全社目標を達成したものの、廃棄物において特に実績差が大きく見られました。原因は、新たな目標となった廃棄物の分類定義が未だ一部拠点で不一致であったため、会議で共有後、有償廃棄物・無償廃棄物・有価物のデータ精査および修正を開始しました。引き続きデータ精度向上に取り組めます。また各拠点別の環境データ分析表を展開し、目標未達の拠点に対しては、原因分析に基づく改善を行うよう指示をしました。

#### ■最優秀賞(拠点1位)：F&P Mfg., Inc. (F&P)

##### 溶接ワイヤー包装の変更 - ファイバー樽



溶接ワイヤーの容器を、金属とファイバー製から全てファイバー製に変え、容量も倍に増やしました。改善の結果、今まで廃棄物として排出していた空容器が、すべて再資源化できるため廃棄物が50%削減しました。また、包装単位の容量を倍にしたことで、在庫としての保管数量の見直しが可能となり、仕入や廃棄の頻度も低減できました。(P31)

溶接ワイヤーの容器を、金属とファイバー製から全てファイバー製に変え、容量も倍に増やしました。改善の結果、今まで廃棄物として排出していた空容器が、すべて再資源化できるため廃棄物が50%削減しました。また、包装単位の容量を倍にしたことで、在庫としての保管数量の見直しが可能となり、仕入や廃棄の頻度も低減できました。(P31)

#### ■CSR賞：F&P mfg., De Mexico S.A.DE.C.V (FPMX)

##### 近隣の学校への環境教育とゴミ箱の寄付



近隣の中学・高校の学生を対象に、環境に関する知識を深めてもらうため、付近の学校で環境セミナーを開催しました。学生は近年急速に起きている環境問題に関心が高く、水質汚染や大気汚染が地球環境に与える影響などの質問や心配の声が多数ありました。最後に、学生たちに環境意識をより持ってもらうために、ゴミ箱を寄付しました。(P30)

近隣の中学・高校の学生を対象に、環境に関する知識を深めてもらうため、付近の学校で環境セミナーを開催しました。学生は近年急速に起きている環境問題に関心が高く、水質汚染や大気汚染が地球環境に与える影響などの質問や心配の声が多数ありました。最後に、学生たちに環境意識をより持ってもらうために、ゴミ箱を寄付しました。(P30)

### (2) 各生産拠点による環境報告の発行

内部機能の目的：各拠点の環境意識向上と公表に伴うデータ精度向上。

外部機能の目的：環境保全の姿勢や具体的な対応等を公表し、外部の利害関係者に対して説明責任を果たすと同時に、環境に配慮した事業活動に対する適切な評価に結び付く事。

これらを目的として、2020年に各拠点での社外発行めざし、推進状況を確認しました。

### (3) 第10回世界環境会議に向けて

世界環境会議は2019年で10回目の節目を迎えます。過去に水平展開された環境施策の実施状況を確認するため、チェックシートを展開しました。今後、拠点別の環境データの分析状況と施策実施の進捗状況を確認し、弱点領域の対応と人材育成の強化を行いながら「2030年グローバル環境目標」の達成に向けて、グループ一体となり推進していきます。

#### ■優秀賞(施策1位)：偉福科技工業(武漢)有限公司 (FTW)

##### 塗装排水処理薬品の溶解水改善



塗装の排水処理で使用する薬品の溶解について、これまで水道水を使用していました。改善後は、水道水の代わりに排水処理施設での処理水を活用し、薬品の溶解液として使用することで、水道水使用量が、年間3,360t、水道料金を10,517元削減できました。また、水位センサーと連動し、タンクに適量が自動給水されています。(P33)

塗装の排水処理で使用する薬品の溶解について、これまで水道水を使用していました。改善後は、水道水の代わりに排水処理施設での処理水を活用し、薬品の溶解液として使用することで、水道水使用量が、年間3,360t、水道料金を10,517元削減できました。また、水位センサーと連動し、タンクに適量が自動給水されています。(P33)

#### ■アイデア賞：F.tech Mfg., (Thailand) Ltd. (FMTL)

##### 社内に「ゴミ銀行」を設置/ごみと卵との交換



従業員のごみ分別に対する意識がまだまだ不十分で、リサイクルごみが廃棄物に混入していました。

そこで、従業員のごみ分別に対する意識向上のため、リサイクルごみの引き取りを行う「ゴミ銀行」を社内で開設し、リサイクルごみで貯金するシステムを作りました。ごみの売却益で、ごみと卵交換の費用(P32)や環境保全活動費に充てています。

## ガソリンエンジンから電動化へ、次世代車も視野に開発を推進します。

当社は1959年に本田技研工業(株)と2輪部品の製造で取引を開始して以来、今では4輪自動車の重要保安部品である足廻り製品群の開発・製造メーカーとして、世界の自動車メーカー各社を通じ、モビリティ社会の発展を支援しています。

今後、パワートレインがエンジンからモーターに移行するとしても、足廻り部品に対する軽量化や高剛性、安全などへの性能要求はかわるものではありません。当社は次世代車も視野に着実に開発を進めています。

### 世界4極で技術を共有、24時間開発体制を構築

現在、世界9か国11の生産拠点に加え、開発技術拠点を7か所所有しています。各地域で、製品開発、試作及び生産効率検証、製造性解析など主要な役割を明確に分担するとともに、日本、北米、アジアの各開発拠点が連携をとることで24時間体制の開発を可能にしています。

### 独自の解析技術を駆使し製品性能領域まで予測

当社では、お客様の強度・耐久や車両性能向上へのニーズの高まりに対応するため、独自に発展させた最適化シミュレーションや機構シミュレーションを駆使して製品設計を実施しています。最適化シミュレーションとは、無駄のない製品形状を検討する手法で、最近では要求性能が高まる衝突性能にも適用し、最軽量

製品を開発しています。

さらに、独自に構築した衝突解析手法を用いて高効率なエネルギー吸収構造・骨格を構築。車種ごとのニーズに対応した開発が可能となりました。

### ペダルアームの樹脂化を開発し、軽量化に貢献

当社では、ペダル部品においては以前から一部に樹脂の製品を採用しています。直近では北米 Honda of America Mfg., Inc. でクラッチペダルアームの樹脂化の量産を開始しました。高まる燃費規制値のクリアをめざして、製品への更なる軽量化は大きなキーワードの一つです。

シャーシ部品のサスペンションアームやアクスルビーム等の当社主力製品群も、ハイテン材の積極的な採用などで強度を保ちつつ板厚を低減することで軽量化を実現し、燃費向上に貢献しています。



### 車の操縦安定性を実現する高剛性Suspension Armを開発

Suspension Armは重量や慣性がかかるとねじれやひずみが発生します。従来の平板構造のSuspension Armでは、ねじれひずみの発生を抑えて剛性を上げるには、板厚をアップしますが重量が増すという問題がありました。

当社開発の高剛性Suspension Armのダブルバーリングではこのねじれを抑制し、変形しにくくすることが可能となります。

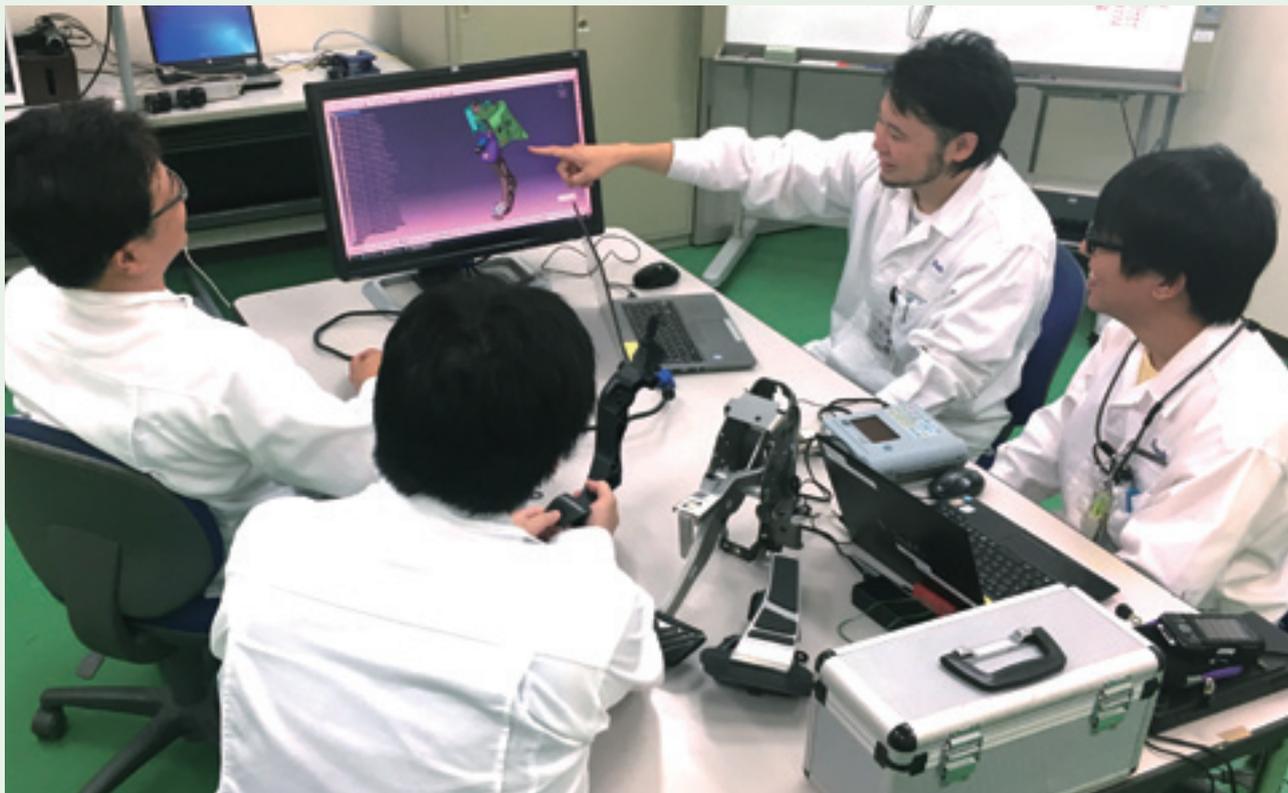
さらに、インバース&ダブルバーリング構造にすることで、板厚を増す

ことなく剛性をアップすることが可能となり、同時に軽量化も実現できます。

また、当社はこの高難易度塑性加工を、汎用設備の有効活用によって高効率に生産する方法を独自の技術によって確立しました。



\*1 インバース断面: 鋼板の末端部をArm本体の内側へ折り込む形状  
\*2 Wバーリング: Bushを双方向から支える構造(高剛性、操縦安定性向上を実現)

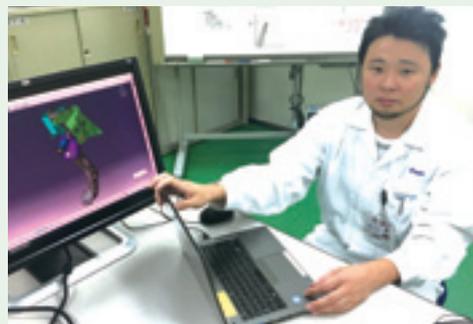


## F-voice 研究・開発力

## 解析技術による「軽量化」の追求は、次世代車にも共通する重要テーマです

開発本部 商品開発部 コントロール開発課

渡邊 愛介



**私** は車とものづくりが好きで就職先として自動車業界を選びエフテックを見つけました。

**エ** フテックの手掛けている製品は、自動車部品の中でも重要な役割を果たす部品です。乗り心地や操作性に影響するサスペンション部品やペダル部品を、開発から生産まで一貫して製造していることに魅力を感じ入社を決意しました。

**製** 品設計というと、図面を書く仕事と思われがちですが、実際はそれだけではありません。性能はもちろん、さまざまな部署の意見を取りまとめて、製品に反映していかなければなりません。取引先や社内と何度も打ち合わせし、連携を取りながら最終形状を決めていくことが、実は設計者の最も重要な仕事かもしれません。

**近** 年、電動化や自動運転など次世代自動車が話題になっています。

**自** 動車の車体軽量化は、自動車本来の燃費の向上やCO<sub>2</sub>排出量の低減に大きく影響します。さらに重心高の抑制にもつながり、走行性能や操縦安定性も高まるため、電動化が進む中でも不可欠な要素なのです。軽量化においては、解析技術による梁の通し方や材料置換について、他社では検討出来ない形状や魅力ある仕様の提案が可能となります。

**さ** らに高い技術をめざすには、既存技術を進化させることはもちろん、新しい技術を取り入れる必要があります。新しい技術と既存技術の融合を行うことで、魅力ある製品を世の中に発信していきたいと考えています。苦勞して提案した仕様が製品となって、完成車に搭載され、街中を走っているのを目にしたときには大きな喜びとやりがいのある仕事だと実感しています。

## Japan



久喜事業所 (埼玉県久喜市)

### 水銀灯全廃への計画的対応とLED置換による省エネ

2020年以降水俣条約により高圧水銀灯の製造が禁止となります。そこで、久喜事業所では2019年末までに高圧水銀灯の全廃に向けた更新計画をたて、2017年より順次LEDへの置換更新を行ってきました。高圧水銀灯全138灯の内2018年度までに121灯の更新を終え、計画の最終年となる今年に残る17灯をLEDに更新しました。更新とともに照度も最適化することで、水銀灯使用時の年間消費電力240,683kWhから、年間38,719kWhまで低減し、年間201,964kWhの電力削減を実現できました。

またLED化にともない必要時に瞬時点灯が可能となりました。これによって、これまで止むを得ず点灯させていた照明を必要時のみ点灯させることで、運用においても電力削減を実施しています。

今後は環境省の推奨する「あかり文化の向上」からさらなるLED照明の普及促進が求められると考え、事業所内における蛍光灯のLED置換更新も計画的に行っていきたいと考えています。



▲Before



▲After

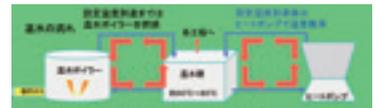
亀山事業所 (三重県亀山市)

### ヒートポンプによる都市ガスの削減

カチオン電着塗装工程では稼働開始時に温水槽を設定温度(60℃～80℃)に上げるために、温水ボイラーを燃焼させています。また、設定温度を維持するためにボイラーを燃焼し続ける必要があり、稼働中は常時、都市ガスを燃焼させています。特に気温が下がる冬季は使用量が増加します。今年度は都市ガス使用量を削減する改善施策として、ヒートポンプ(電気式)を導入しました。温水槽が設定温度に達した後は、ヒートポンプで温度を維持することで、都市ガスの使用量を削減しています。冬季と比較すると月間740m<sup>3</sup>(CO<sub>2</sub>換算1,539kg-CO<sub>2</sub>)の都市ガス削減となりました。次年度は乾燥炉の稼働開始時間の最適化に取り組むことでいっそうの燃料削減改善を推進します。



ヒートポンプ

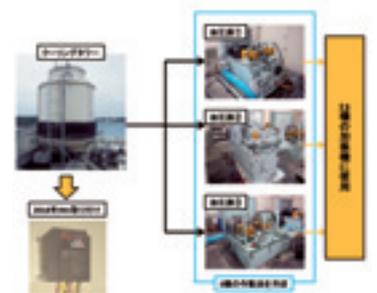


芳賀事業所 (栃木県芳賀郡芳賀町)

### クーリングタワーのインバーター化による電力削減

開発部品の耐久性評価に用いる疲労試験機では、その動力源である油圧源の作動油を冷却するためにクーリングタワーを使用しています。クーリングタワーは、使用によって温度が上昇した冷却水を送風機で送り込んだ外気と直接接触させ、一部の冷却水を蒸発させることで残りの冷却水を冷やします。現在使用しているクーリングタワーは、2001年に導入したもので送風機は油圧源の稼働状況や外気温にかかわらず一定の出力で回転する仕様であり、最大負荷がかかったときでも対応できる出力設定にしておりました。

今回、省エネルギー対策として、送風機の出力をインバーター制御に改良し、油圧源作動油を適正温度で管理することで、過冷却の抑制が可能になりました。その結果、前期に比べ10,780kWh(4.1ton-CO<sub>2</sub>)の電力使用量削減を見込んでおります。



クーリングタワー

## Japan



フクダエンジニアリング株式会社 (FEG / 埼玉県加須市)

### 外灯のLED化による消費電力削減

FEGでは、敷地内に設置されている9台の外灯にハロゲン電球を使用しています。今回、これらの外灯をLED電球に交換することで消費電力の削減を試みました。

FEGで使用しているハロゲン電球の消費電力は1個400Wで、1日12時間点灯するため【400W×12時間×30日×9台=1,296kWh/月】の電力を消費しています。今回、これらの外灯を1個160WのLED電球に変更したことで【160W×12時間×30日×9台=518.4kWh/月】となり、777.6kWh/月の消費電力が削減できました。また、夕方5時の自動点灯設定から、センサー設置によって5時以降でも暗くなってから点灯する設定に変更したことで、夏場の消費電力削減の一助となりました。加えて電球の交換年数も3年から10年と延びました。電気料金は今後も値上がりすると考えられるため、いっそう省電力化を推進していこうと思います。



株式会社九州エフテック (QFT / 熊本県山鹿市)

### 社内照明LED化

2017年度から九州エフテックでは、工場内の社内照明のLED化を進めてきました。まず第1STEPとして、2017年度にプレス・鍛造工場のLED化を実施し、2018年度は、溶接工場、組立工場、事務棟のLED化を実施し、ほぼ工場全体のLED化が完了しました。そこで、2017年度の第1STEPから2018年度完了までの、売上げと電気使用量を比較してみると、

2017年度 売上：1,609(百万円)、電気使用量：1,180,841(kWh)

2018年度 売上：1,513(百万円)、電気使用量：1,046,437(kWh)

となり、2018年度は、売上げは6.0%減少に対し、電気使用量は11.4%減少と、大きく上回りました。この効果は、単に工場全体をLED化した効果ではなく、LED化にすることで、休憩時間毎に照明をOn/Offする習慣が身についた結果だと思われます。今後は、作業場毎の局所照明についてもLEDに変更していく予定です。



プレス工場



溶接工場

株式会社リテラ (埼玉県秩父郡小鹿野町)

### 「第二工場(熱処理工場)」省エネ対策

アルミ鋳造製品の強度を上げるため、2007年に工業団地の一面に熱処理工場を建立しました。操業から11年が経過して生産増とともに夜間作業も増え、エネルギー使用量・CO<sub>2</sub>排出量も年々増加しています。2017年度は390t-CO<sub>2</sub>を排出、天井照明電力量の削減として2018年度に天井照明の水銀灯全28灯をLED灯に更新、また、「埼玉県省エネ補助金」の採択によって最小限の設備投資で電力を半減できました。2018年度はLED更新効果の影響もあり381t-CO<sub>2</sub>(2.3%削減)の排出実績となりました。

- ・更新前：水銀灯300w×28灯    更新後：LED灯150w×28灯
- ・投資：合計 ¥2,020,000 (うち埼玉県補助金 ¥610,000)
- ・削減効果：電力量22,000kWh/年    電力料金 ¥418,000/年    11t-CO<sub>2</sub>/年
- ・投資回収：3.4年



アルミ第二工場



LED灯更新

## North America



F&P Mfg., Inc. (F&P / カナダ オンタリオ州)

### 梱包材圧縮機の更新による輸送量削減

ペダル用の梱包材は、圧縮機に対して大きいため、廃棄前の圧縮ができませんでした。そこで、圧縮可能な大きな機種にアップグレードしました。これまではトレーラー1台あたり60箱までしか積載できず、1か月に5台のトレーラーを使用して処理施設に排出していました。更新の結果、1台あたりの積載量を大きく向上させることができ、結果、年間19台分のトレーラーの積み荷が削減でき、13,860ドル/年のコスト削減となりました。また、発送に使用していたフォークリフト使用回数も同時に削減され、CO<sub>2</sub>排出量削減に貢献しました。



圧縮の様子



トレーラー内部

Dyna-Mig, A division of F&P Mfg., Inc. (DYNA-MIG / カナダ オンタリオ州)

### 絶滅危惧種 (モナーク蝶) の生息域づくり

モナーク蝶は、メキシコから北米へ移動します。オンタリオ州は、モナーク蝶の産卵、その幼虫の育成地の一部ですが、近年、モナーク蝶の数が激減していることが報告され、現在では、絶滅危惧種に指定されています。その一因として、モナーク蝶の幼虫が唯一摂食する、農地に生えるトウワタの葉が、農薬などの有害な化学物質の影響を受けたことがあげられます。

DYNA-MIGでは、2017年に雨水収集池の周りにトウワタの種を蒔きました。その成果で2018年には、雨水収集池に倍以上のトウワタが生育し、多くのモナーク蝶を確認することができました。



F&P America Mfg., Inc. (F&PA / アメリカ オハイオ州)

### 命を救う献血活動

F&PAは、2018年度に3回の献血活動を実施し、献血活動の目標76名に対して74名が献血を行い、目標値の97%となりました。この献血活動は2011年より実施しています。F&PAの参加者の多くはリピーターであり、献血を通じた社会貢献活動ができることを毎回楽しみにしています。



F&P Georgia, A division of F&P America Mfg., Inc. (F&PG / アメリカ ジョージア州)

### エトワ川清掃イベント

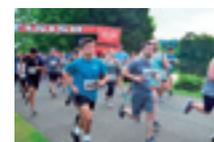
2018年9月15日、エトワ川清掃イベントに100名が参加し、1,800ポンド(0.9トン)相当のゴミの撤去に貢献しました。多くの市町村の飲用水の供給源になるという観点からも、汚染から河川を守ることは極めて重要であり、きれいな水環境造りは、生態系の保全につながっていくと考えます。



### チャリティ 5K/3Kヘルスウォーキング

F&PGでは、従業員だけでなく地域住民を対象として5km、3kmの健康ウォーキングを開催しました。この結果癌治療を受けている配偶者を持つ従業員への寄付金として8,455ドルを集めました。

※寄付金内訳: イベント参加費+参加者からの寄付金



## North America



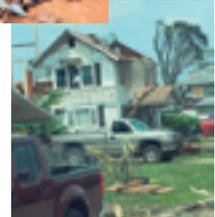
Ftech R&D North America Inc. (R&DNA / アメリカ オハイオ州)

### 竜巻被災者支援と環境活動

R&DNAでは、地域社会への貢献として、ホームレスなどの保護施設への寄付を継続的に行っています。オハイオ州のオフィス周辺の各地域で戦没将兵追悼記念日に発生した大規模な竜巻被害に対しては、従業員が中心となって清掃用具や生活必需品を集め、各被害地域に届けました。

会計と試作に統合基幹業務システム(ERP)を導入した結果、効果的に紙の使用を50%以上削減できました。また、ミシガンオフィスへの営業部門併設にもなって、照明を蛍光灯からLEDに変更しました。オフィス用品もコスト削減だけでなく、再利用材などカーボンフットプリント\*の低いものを探し、社用車の買い替え時期には、EVを含め燃費を考慮した車を選んでいきます。

\*カーボンフットプリント:Carbon Footprint of Productsの略。商品・サービスの原材料調達から廃棄・リサイクルにいたるライフサイクル全体を通して排出される温室効果ガスの排出量を、LCA(ライフサイクルアセスメント)手法の活用でCO<sub>2</sub>に換算し、商品やサービスに表示する仕組み。



FEG de Queretaro, S.A. de C.V. (FEGQ / メキシコ ケレタロ州)

### 『社会貢献プログラム』を活用

社会貢献プログラムの一環として、従業員とその家族がグアナファト州との境にある「ラ・バレータ」地域で、固有種の植樹活動に参加しました。この活動は森林再生による砂漠化の予防が目的です。活動に参加したことで地球温暖化に対する意識、環境維持の大切さなど改めて考える良い機会となりました。

これからも積極的に各種プログラムに参加し、地域に対して継続的に貢献していきます。



F&P mfg.,De Mexico S.A.DE.C.V (FPMX / メキシコ グアナファト州)

### 植林活動と地域との調和

メキシコは非常に暑い国です。植林によって日陰をつくることはリフレッシュにつながるため、非常に人気のある活動です。従業員は自分の手で地域の種の30本の木を植え、生物多様性の維持にも貢献しています。また、近隣の学校に2年続けて環境講話を実施しました。環境に対しての質問や心配のコメントが寄せられるなど、生徒から非常に関心が寄せられました。講話の後、分別のためゴミ箱5台を寄付しました。

電力消費を削減する活動では、溶接ラインの一部の照明280本をLEDに変更しました。その結果、年間約2,580.48kWh削減と1,173kg-CO<sub>2</sub>を削減しました。

植林活動



学校での環境講話の実施



学校へゴミ箱の寄贈



## 1986年創業、グループ初の海外拠点で HAM\* Environmental Awards 受賞

2018年10月30日にHAM\*主催のサステナビリティ・シンポジウムがオハイオ州コロンバスで開催され、F&Pの“廃棄物管理・省エネルギー・生物多様性の保全”の活動で評価されました。

\*HAM : Honda of America Manufacturing



同社の溶接課では、溶接ワイヤーの購入を、金属と繊維で出来た500LB容器から、全量リサイクル可能な繊維製の1000LB容器に変更しました。これによって廃棄物が50%削減、ゴミ焼却場への送付回数も19回削減、また、ワイヤー仕入頻度が半分になったことで、年間\$20,000コスト削減できました。



ハイドロ課では、レーザーカットシステムをエネルギー効率の良いモデルに変えました。このレーザーシステムは、電気=光の変換効率が高いため、82%少ない電力(217,300 kWh)で加工できます。

F&Pでは、電力を\$30,422削減する事ができ、加えてSaving ON Energyより\$23,530の奨励金を頂きました。

F&PではEnvironmental Management Systemの中で、毎年植樹と清掃活動を社員が参加できる活動として目標に掲げています。2019年4月27日、F&PはSouth Simcoe Streams Networkから提供された40本のタマラックと10本のトウヒの木を植えました。また、さまざまな種類のフェンスを設置し“働きすぎ”のビーバーから約40本の木を保護しました。また、過去に植樹した150本以上に“樹木保護材”をつけ維持しました。侵略的外来種に指定されているヨシについて学び、1000個以上の穂の種子の頭を切り落とす事で繁殖を抑制しました。



F&Pは、エフテックの北米子会社6社のひとつで、1986年11月に創業したグループ初の海外拠点です。2基のプレスから始まり、現在では様々な自動車部品を生産する会社に成長。2017年には3500tのサーボプレスを導入しました。

住 所 1 Nolan Road, Tottenham,  
Ontario Canada L0G 1W0

従業員 約840名

面積他 敷地面積 417,000 m<sup>2</sup>、建物面積 24,100 m<sup>2</sup>

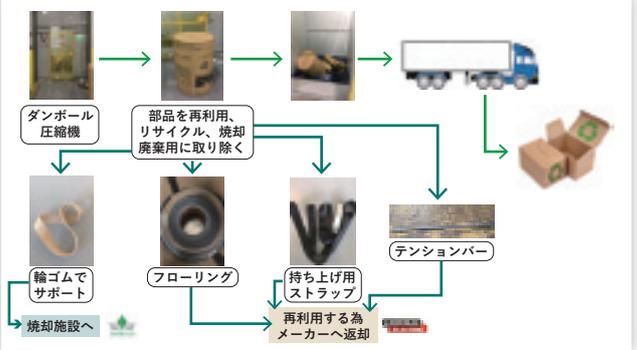
特 徴 主にシビックやCR-Vなどのホンダ車を中心に年間60百万部品を生産

近年の表彰歴

Green Excellence Awards 廃棄物管理エネルギーと生物多様性の保護 (2018年)、ホンダクオリティパフォーマンス賞・ホンダデリバリー賞 (2016年)

### 無駄の削減活動

工程の流れ-新しい製品のライフサイクル



## Asia



F.tech Philippines Mfg.,Inc. (FPMI / フィリピン ラグナ州)

### 植樹活動を通じて従業員の認識向上

FPMIは、フィリピン政府プロジェクトをサポートする社会貢献の一環として、2018年10月にFR&DPおよびフィリピン環境天然資源省と、植樹活動を実施。61人のボランティアの手によって、ラグナ州シニロアンに、マホガニー、ナラ、コーヒーなどの苗木を約1,500本植えました。このNational Greening Programは、森林保全のみならず、貧困問題、食料安全保障、生物多様性の保全、気候変動問題への対応と問題の緩和をめざしています。この活動を通じて、環境保全の重要性について従業員の認識向上につとめていきます。



F.tech R&D Philippines Inc. (FR&DP / フィリピン ラグナ州)

### 若者の未来を支援する活動

FR&DPはFPMIと共同でBrigada Eskwela 2018へ参加をしました。Brigada Eskwelaとは、教育省が主導する活動で、様々な団体組織や保護者が子供たちの公立小学校新学期に向けて、準備を支援しています。

今年はFR&DPがあるビニャン地区の2つの小学校を担当し、教室の清掃、整理整頓、壁の塗装の環境整備を行い、学校食堂に飲み物用のグラスも寄付しました。また政府の国家緑化プログラムに連動した植樹活動がラグナのシニロアンで開催され、FR&DPも1,500本の苗を植える活動に参加しています。これらの活動は、どちらも“フィリピンの若者の未来を支援する”ことを目的に実施されています。

また、社内イベントのファミリーデーでは、子供たちにリサイクルの方法を教えることで環境意識の向上につなげる活動をしています。



F.tech Mfg., (Thailand) Ltd. (FMTL/タイ アユタヤ県)

### ゴミと卵を交換／植樹

FMTLは、環境教育の実施と環境活動の啓蒙につとめ、環境保護意識を高めるとともに、環境保護活動を通じて社員への理解促進を継続的に進めています。

環境教育の一環として、事務局にゴミを分別して持参すると卵と交換する制度です。たとえばペットボトル10個で卵1個と交換します。分別収集されたゴミはリサイクル業者で換金し、卵の購入や地域のお寺に寄付などを行っています。無造作に捨てればただのゴミですが、分別することによってリサイクルが可能になり、お金になるということで効果が実感できます。

また、近年塩田開発やエビ養殖の影響で、急速に減少しているマングローブ林の破壊を防ぐべく、植樹を行いました。この活動はマングローブ林の回復とともに、そこに住む水生動物の生態系と繁殖地の保全にも繋がっています。



PT.FTECH INDONESIA (FTI / インドネシア カラワン県)

### 近隣住民の子供たちへの健康診断と食糧提供/孤児院への物品寄付

FTIが所在するKIIC工業団地(Karawang International Industrial City)では2008年の運営開始以降、共同CSRプログラム/ベビーフードをKIIC近隣の村に子供達の健康診断日に合わせて補給、配布活動を実施しています。インドネシアで事業を行なうには、近隣の村の協力が非常に重要であることから、KIICの各企業とともに各近隣の村を訪問しています。今回は同社の従業員が参加し、地域への社会貢献に関する意識を深めることも視野に入れて進めています。

また、定期的に行われるCSRプログラムの一部として、工業団地の周りに住んでいる孤児院の福祉活動にも参加。従業員全員が参加し、宗教指導者を交えながら、約20人の孤児に食料品を寄付しました。



## China



偉福(広州)汽車技術開発有限公司 (FR&DCH / 中国 広東省)

### 低騒音クーリングタワーの更新工事

隣接するアパート住人からの騒音苦情や環境保護局からの環境影響評価とその改善対応をすることが経営上急務になりました。

当初、隣接するアパート住人からクーリングタワーの騒音苦情を受け、遮音壁を設置しましたが、顕著な効果が得られませんでした。そこで、新仕様のクーリングタワーを設置した客先を見学したところ、クーリングタワーの騒音測定実施結果は、静粛性が高く基準以下で管理されていました。早速この新仕様の冷却タワーへ交換することに決め、能力、騒音値対比を検討し、最終的に、騒音が小さくメンテナンス性が良く組立式で敷地面積が小さい機種を選定し、設置しました。

改善後、隣接するアパート住人からの騒音苦情も無くなり、また2018年8月には、環境保護局の合格証も取得できました。



改善前



改善後

偉福科技工業(武漢)有限公司 (FTW / 中国 湖北省)

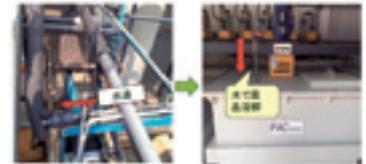
### 塗装排水処理工程の水消費量の改善

塗装排水処理工程は、5種類の薬品( $\text{FeSO}_4$ 、 $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 、 $\text{NaOH}$ 、 $\text{PAC}$ 、 $\text{PAM}$ )を、水に溶解させて使用しており、この工程の水消費量は毎月280tになります。

排水処理を行った処理水を再利用できるように配管を見直し、再び塗装処理薬品の溶解に使用することで、水の消費量の低減に努めました。水道管に処理水配管を接続し、供給タンクの水位によって自動給水ができるようにしました。改善後は、塗装排水処理に5種類の薬品の全てを再利用水で溶解させることができ、年間の水消費量を3,360t、水コストを年間1万元削減しました。

#### 塗装排水処理薬品の溶解水改善

塗装水処理薬品は水道水で薬品の溶解をしている。毎月の溶解薬品用水の使用量は280トン/月。



感知センサー設置

#### 給排水制御システム説明

5つの加薬タンク、タンクの容量は1.5ton/個、合計7.5ton。改善投資30元、年度水使用量削減3360トン、水代削減10,517元。



センサーの自動感知により自動噴霧

偉福科技工業(中山)有限公司 (FTZ / 中国 広東省)

### 塗装工程スプレー削減

塗装ラインが工程設定の汚染度を維持するため、約5.6t/hの水を補給し、同じ量を排水しています。この工程の水使用量削減について検証しました。結果は外観品質が満足できればUF工程後の新純水水洗のところが削減可能だと推測しました。

まず、UF後の新純水スプレーを停止したところ、結果は150部品中、46部品は垂れ等の不具合が発生していることが確認できました。そこで、垂れが発生する部品だけにスプレーを出すように改善すると、一日に32tの水使用量の削減ができることが分かりました。20,000円の投資に対して、年間水使用量7,680t、169,113元が削減できます。

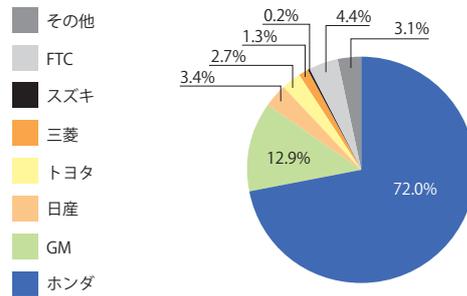
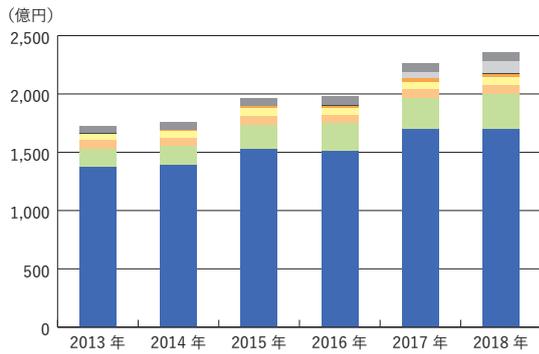
さらに、排水量が減ることで、廃水処理用の薬品代も減る効果があり、環境改善につながります。TOTAL効果として、年間18万円の費用削減ができます。

#### 塗装工程スプレー削減



改善案:垂れ発生する部品だけにスプレーを出すように改善をする。

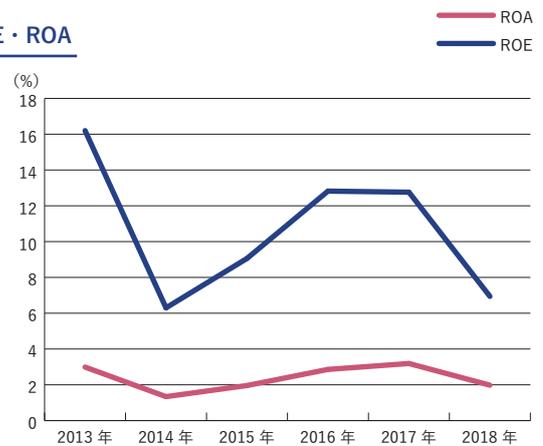
## 得意先別売上高



## 営業利益・利益率



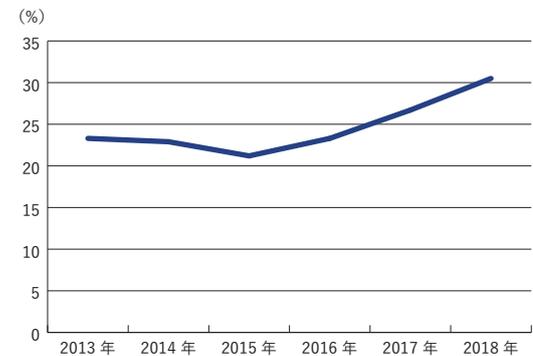
## ROE・ROA



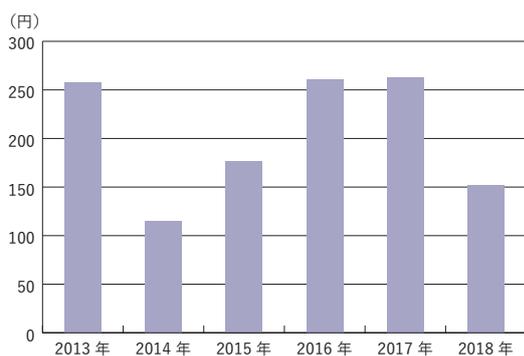
## 総資産



## 自己資本比率



## 一株当たり当期純利益



## 研究開発費・設備投資費





発行：株式会社エフテック  
〒346-0194 埼玉県久喜市葛蒲町昭和沼19番地

問合せ：株式会社エフテック  
管理本部 総務部  
TEL. 0480-85-5211 FAX. 0480-87-1290  
E-mail : webmaster@ftech.co.jp



2020年1月発行 次回発行 2020年10月予定



この製品は、FSC® 認証材及び管理原材料から作られています。